女子青年界

信仰もし行を
兼ざるときは
乃ち死るなり

第十五巻
九月號

省殿下御買上八回
於博覽會共進會金、銀、銅牌廿餘回受賞
桑港萬國大博覽會銀牌受領

オン水齒磨

新秋の
あした、
ゆふべ、
かうして二三滴を
水か、ぬる湯にたらして
がらがらこうがひをしますれば
口中はさわやかになり、むしばの患を除きます。



東京市本所區外手町
ライオン齒磨
ライオン石鹼
本舖 小林富次郎
支店 大阪市東區博勞町二丁目
名古屋市桑名町四丁目
支那上海・漢口・印度孟買

殿下御買上 八回

桑港萬國大博覽會 銀牌受領

於共進會博覽會 金、銀、銅牌 廿餘回受賞

斐產

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
裝身具
床置物
珠數

指環　中差　簪　櫛　根掛　エリ止　帶メ　守玉　ヒン　カフス釦

印傳袋物

二ッ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐　叺　御殿莨入　巻莨持　火の用心　文人持

商標

目錄進呈 申越次第

一水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町

電話百〇二番

振替口座東京五〇六四番

▼講演▲

▼修養會の印象▲

限　九ヶ月（自大正七年九月十六日／至大正八年六月十五日）

間　一日五時間　一週五日間

時間表

英語速記術　三時間

英語（普通英語／商業英語）　一時間

タイプライター　一時間

講義（商業道徳／社界學）　毎週一回

其他ファイリング並ビニ實務ニ必須ナル技能ヲ教授ス

料　一ヶ月拾壹圓（毎月廿日迄ニ納付ノコト）

但最初ノ月拾貳圓（一圓ノ入學金ヲ含ム）

業開始　ハ人員十人ニ滿チタル時ニ於テス

入學ヲ許可サレタルモノハ規定ノ九ヶ月間修業ノ繼續ヲ期待サル。

東京神田北神保町十四

撰　科（タイプライター練習）

入學資格　高等女學校卒業

授業時數　毎日一時間タイプライター練習一週五日。

其他講義（商業道徳／社界學）　毎週一回

授業料　月五圓（毎月廿日迄ニ納付ノコト）

但毎日一時間英語ヲ兼修スルモノハ月七圓納付スベシ

本會ニ於テ各自ノ技能ガ相當ノ熟練ニ達シタルヲ認メタル場合ハ就職ノ周旋ノ勞ヲ取ルモノトス。

入學志望者（本科撰科トモ）入學願書ニ自筆ノ履歴書並ビニ在學證書ヲ添ヘテ成ル可ク速カニ神田北神保町十四女子青年會（加藤高子幹事）宛ニテ差出サレタシ。

右受附〆切期限九月十日

本會學生ハ英語及ビ速記術教科書ヲ購入スルヲ要ス

タイプライター教科書ハ本會備付ヲ使用シ得ル特典アリ

女子青年會英語會（電本局五九八）

女子青年界
第十五巻九月號
大正七年九月一日發行

奉仕の報酬

河井道子

兼ねたる實行、其に愛を加へて打出すと云ふ第十三回修養會の精神で、終始一貫したる講演には會衆一同非常な激勵を受けました。仙臺との兩修養會の出席者は北は北海道札幌福岡から參りました。昨年に比しては人數劣ったかも知れませんが質に於ては優に勝した、と申すのは會の精神を充分に了解し滿腔の同情を以て此を助けしもの、全會の自發的に尽力せしもの、信仰の告白とせ

き深く神に謝すと同時に各所にて祈により本會をお助け下さる遠近の友人方に御禮を申上ねばなりません。先づ祝電や手紙で修養會を勵まし下されし方々の芳名を記して見ましよう。東京よりは志立たき子三谷民子、渡邊百合子、ミスマクドナルド、東京女子青年會、横濱より城戸順子、盛岡より女子青年會臺灣より島田初子、四國より横川豐野、米國より横澤つぎ子、カナダより阪本花代、ミスハメルの諸姉で御座います。其他手紙は參りませんでも幾多の姉

こん」
れよりも面白く有益な會です」
愚圖々々ばかりして人の缺點がよく見える性
ん、是から矯正事に決心しました」
人との前に罪多き私が赦さるゝ事の出來るの
人になる事を感謝します」
青年會も是から活氣づかせます、今まで何
たかと思ふと恥しくなりました」
は私共の學校に修養會をお開き下さい、今か
踊を致します」
私共の學校で修養會の開かれた時は私共は何
こんでした、今度皆樣の甲斐々々しいお働き

外國と申すのは、世界の公園の名あるスキ
ドで、其國の勝地なるチニパ市の男女學生
宛てたのであります。同國は中立國とは云

「私は親類の世話で學校に行けますが、叔父が私の
信者になつたのを嫌がり迫害しますが、私は此叔父
も神を信仰する樣に導きましようと決心しました」
以上は美しき告白の例に過ぎませんが、隠れたる
に見給ふ神の前には、幾多の懺悔、讃美、感謝が昇
つたか解りません。斯く善き決心を起さしめし神が
是を全ふし給ふことを祈ります。
「何しろ標語が行を兼ねる信仰と云ふのですから、
何でも實行しなくてはならず、又手近に實行が出來
ます事も澤山ありました。其で私共が確に神と人々
に奉仕せんとの誓の一つとして、外國の困難して居
る學生等の爲め献金を爲し得たのも實に美擧と存じ

き教訓を受け、併も奉仕の精神を鼓吹されてゐなが
ら、手を束ねて散會が出來ません、特に歐米諸國の
婦人等の献身的犠牲の幾分かを聞くさへ、我等の利

ドで、其國の勝地なるチニパ市の男女學生宛てたのであります。同國は中立國とは云の中間に挾まつて居る小國であるが上に、病兵や、避難者や、浮浪者が夥しくて全國には早くから缺乏を來たして居ます。然る市にある學生青年會はホームの空氣を失は諸國からの學生を愛護して居ます。抑同市として有名ですから、平事にてさへ外國人占めて居ります事ゆえ、戰時には樣々の事の出來ぬ外國學生、不合格にて兵營につか交戰國の女學生、本國の學生等が、大概金此ホームに集ります。此事業を監督して居人幹事が友人に手紙をよせて云ふには氣悄沈したる學生が集合する時に、お茶一の活氣を與へるか分らない、是非出來たら」でもよいから茶を送つて欲しい」とありま

ら、手を束ねて散會が出來ません、特に歐米諸國の婦人等の獻身的犧牲の幾分かを聞くさへ、我等の利己主義に捕はれて居るのを慚愧ぢずには居られません。其處で兩修養會は世界の婦人と共に奉仕する端として、チニパ市の學生團に茶を送る事にしました。勿論日本から品物を送るわけには參りませんから、英國の基督教學生同盟本部に送金して先方に屆けて貰ひます。仙臺では金四十五圓余を得ました。神戶のも同額に上りませう。諸姉が喜んで此擧に贊成して下されし事は、今後益々奉仕の實行を盛ならしめ給ふ吉兆と信じます。此他某女學校の代表者は會期中に賣店を開き其純益金全部を寄附されるやら某團體は修養會にとて作りし金が殘りたりとて寄附するやら、又自身が出席出來ざりし故其費用を何かに使ひくれとて送金さるゝやら、實に信仰と望と愛とが形となつて露出れて居りました。

りません。正當な道を踏んで世を送つて居り
、決して他に與へる事のない人間でした。
外國宣教師が訪問して、外國に併も自分に
のない却て惡感を懷いて居る國民のため寄附
ました。最初は斷乎として肯ひませんでし
教師の熱心に感じて終に寄附しました。間
は突然世を去りましたが、彼が病床にある
取まで彼を喜ばせたのは、彼の財産でもな
家族でもなく、只彼が宣教師を通して善事
、寄附をしたと云ふそれであつたそうです
を以て已が友を得よ此は乏しからん時汝等
宅に接んがためなり」との聖書の句はかゝ

（スターース、オブ、サマーナイトの曲）

森田松榮譯

あめにすめる、せいとたちの、あれどひとみ、
ひかりきよく、すむよろづのほし。
あめにすめる、せいとたちの、あれぞころも
ゆきとしろく、てる、まなつのくも

晩

（グッド、ナイトの曲）

めぐみの、あしたのぞみ、主によりつつ
こよひもやすらに、いこふぞうれしき。

講演

月仙臺に於ける修養會にての諸先生の御講演は、來會されし姉妹達により筆記されましたが講師方の校正を經て居りません。又紙數に限りがありますので全部を此卷に揭載の出來ぬを殘念に存じ且御詫申上ます。編輯人。

…戸仙臺に於ける修養會にての諸先生の御講演は、來會されし姉妹達により筆記されましたが講師方の校正を經て居りません。又紙數に限りがありますので全部を此卷に掲載の出來ぬを殘念に存じ且御詫申上ます。編輯人。

人生の遍歴と信仰

稲垣陽一郎

の特色の一は、其毎日の宗教たる點である
其信仰は日常生活の萬事萬端に活用せら
られ、利用せらるべき宗教である。即ち人
通じて、其信仰は種々の程次と密接の關係
ことである。されば吾等の宗教をして毎日
ちしめ一生涯寸時も離さゞる宗教たらしむ
吾等の生涯の肝要時機に活躍せしめねばな
りに之を五期に分つ。
生の青年時代と信仰
業と信仰
婚及家庭と信仰

五、死と信仰

人生の青年時代と信仰

イスラヘルの傳道者は曰ふ「汝の幼き日に汝の造主を記えよ」之れ少年の宗教々育の根本原理を道破せしものである。神を記ゆること早ければ早き程よし。其だけ多く其だけ永く神の惠にあづかる事が出來る。又詩篇の記者は曰ふ「若き人は何によりてか其途を潔めん、みことばに從ふの外ぞなき」之も亦青年時代に宗教の必要なることを道破せるものである。信仰を以て老人にのみ要する如く考ふるは大なる過ちである。青年は春駒の如く、其精力旺盛で、

る所自ら清からざるを得ない。常に心の思
正しとせば、其行も亦清く正しかるべきは
ある。從て誘惑に抵抗する力を得、此力は基
賜である。

は向上の時代である、青年は美にあこがれ、
こがせる時代である、但し之を得ずんば滿足
之に乘じて種々の誘惑は迫り來る、基督敎
此向上憧憬の渴望に對して、其求むる最上最
のものを提供するのである、又此の時代は英
する時代である。然るに英雄崇拜の最も高尙
雄豪傑である、又青年は冒險を愛する時代で
れそあらゆる冒險中信仰の冒險程大なる且愉
冒險はない、聖書に載せらるゝ信仰の勇者は

助けしむるものである。この世界は神の世界
もし神が世を作り給ふたならば、神は世に
て居る筈である、化學者は種々なる方面に於

青年時代は人生の活動に於ける準備時代である、人はこの準備を終らば相當の職業に就かねばならぬ各其專門に應じ適當の職に就く事は、一方から云へば直接の目的即ち生活の爲であるが、又職業は一つの天賦である。基督も職業を持たれたし、ポーロも職業をもつて居つた。

基督敎信仰は人として忠實に職業に從事せしむ、職業其ものは如何に小なるものであつても、神を信じ神の前に事を爲すのであるから、忠實ならざるを得ない、小使をしても最上の小使ならんとし、大統領をしても最上の大統領ならんとする、何れにしても忠實ならずんば成功せず、又忠實は熱心を生む、信仰は人として其職業によりて、神の眞理を發見

を破壞し得ざるもので、即ち第三の分子は其間に絕對に入る事は出來ないもので、人生の理由に由つては破壞し能はざるのである。然るに日本の結婚は法

もし神が世を作り給ふたならば、神は世に居る筈である、化學者は種々なる方面に於發見せんとして居る故に基督教の信仰があ何に益する事があるであらう、植物學者がを理解するにも、天文學者が天文を研究す信仰によりて助けられる、生理學者は命のであり、其息は神により與へられたるもの云ふ眞理を發見する大なる助けを得る事がわれら信仰によりて諸の世界は神の言にてれ、みゆる所のものは見るべき物に由りて造とを知る、（ヘブル書十一―三）

結婚及家庭と信仰

定の職業を得るに及ばゞ家庭を造る、而か結婚によりて始まる。その結婚に對する理か低いかに由つて種々なる利害が伴ない、庭、社會、國家の運命と甚しき關係がある

破壞し得ざるもので　既に第三の分子は其間に絶對に入る事は出來ないもので、人生の理由に由つては破壞し能はざるのである。然るに日本の結婚は法律上に於てのみの契約である、故に若し契約のみに過ぎぬものなれば人間の考に由つて破壞される事も出來從つて國家の運命にも及ぼされる。

基督教的家庭は花園に於ける日光と水の如きものである、日光の豐富ならざる花園には、誰か美花を期待し得んやである。祈禱の捧げられざる家庭に於ては理想的の家庭は成立し得ない。ポーロはテモテに「我なんぢの僞なき信仰を念ふ此の如き信仰は前に爾の祖母ロイスまた爾の母ユニケにあり今爾にも在る事を信ずる也」と書いた、之は三代に亘つて信仰が家庭の中に行はれしを示すもので、實に美しき家庭の特色をあらはしたものである。斯の如く家庭に於ける母の感化は非常なもので一人の母は十人の教師に優ると云はれて居る。リンコルンの母は二百エ

試錬と信仰

は新婚當時の如く一年四時春のみではない、涼の淋しい時も家庭に來る。世の中には涙ののない家庭もある、其の解決に苦しんで酒にに慰められ、或は命を縮める人さへある。信たからとて其苦痛を免役される譯ではないが仰に由り切り拔ける事が出來る。基督教信仰を見るに神の公大にして善良に且賢明なる攝にありとする、即ち神は一々愛し一々守り給ふこの點に基づく、野の百合の花も神の惠に美しく咲いて居る、まして萬物の靈長たる人は守らぬと云ふ事はない。

悲痛を取り去り給はぬ譯かも知れない。

死と信仰

信仰が其力を發揮するのは死の問題である

故に教科書たるこの世には樂しい事も苦しい事もある可きである。「悲しみは神が其友とならしめん爲の紹介狀なり」と云つた人があるが悲痛は我等をして神に接近せしめる。

悲痛は罪を矯正せしめる一法である、悲みそのものは罪ではない矯正する力を持て居る、濱の眞砂は波にあらはれて清くなると同樣に、悲痛により吾々の人格は清められる。

悲痛は同情を呼起す、吾々苦痛の時に神より慰めらるゝ如く、神より與へられたる惠を他人に分與へる事が出來る。苦痛は無意味に與へられたるものでない、慰を他人に與へる爲である。これは人生に神

てしまふものでない、墓場は人間の終局の場所ではない、父の家の住居に於いて個人性を續けて行く事が出來る。

給じめ訴太を知れない

死と信仰

信仰が其力を發揮するのは死の問題である
り給はる安息である。他の傳記に於いて發
ざる事は、神の召により安息を給ふと云ふ
。此世を活動の舞臺とするならば、その活
時死を來し給ふのである「汝心をさわがす
家には住居多し」と基督は云はれたが、死
家庭に歸るのである、家庭は樂しき所であ
樂しき所に歸るのである。「はるかにあふぎ
ぐやきのみくにゝ、父のそなへましゝ樂し
り」と讃美歌にあるが其通りで其處には我
に行きし人々が待つて居る。實にこれは基
の教で、人生の最も恐る可きものに對して
と滿足をもつ事が出來る。
つて個人性は破壞され可きものでない。墓
場所でない。雪の彼方の如く死して消ゆる

てしまふものでない
ない、父の家の住居に於いて個人性を續けて行く事
が出來る。
體の甦を信ずるのも信仰の一の條件である。基
督の復活は靈體であつて、吾等もその樣になれる。
基督は吾々の代表者として復活されたのであるから
吾々も復活されるのである。基督教に於ては「死は
甦なり生命なり」と云つて居るが、佛教に於ては
「生者必滅」などゝ光のない印象を與へられる。死は
神が全き愛と智慧とにより吾々の活動より召し給ふ
ので、假令肉體の分子は破壞されても、個人性は死
に由つてあらはされる。

斯の如く基督教信仰は人生の遍歴のあらゆる場合
に密接なる關係がある。幼年の時、青年の時、老年
を經て遂に死に至る迄、影の形に伴ふか如く、力と
なり、光となり、助となり、慰めとなり、人生の縱
横に織込まれ可きものである。之れ必竟基督教が每
日の宗教であるからである。之を抱ける者は其特權

て、毎日同じ事を繰り返してあたかもアフ砂原を歩く人の如く生きて居るのである。はその無趣味と不變化とにたへきれずに琴、藥湯、謠曲など何かの趣味を求めるのであるかつて、この無趣味な人生から、かの衆萬人れて居ると言はれて居る古今の哲學者達は何であらうか、如何なる趣味を求めて滿足したうかと研究して見た事があつた。

先づ世界的大哲學者と言れて居るプラトーを見た。いづれの哲學者も皆理窟の人である。理の人であつた。然し理を以つて人生を解事に滿足せなかつた、彼は理想の世界を畫てたる理想の世界、靈の世界を追ふの趣味に外ぬのである。即ち馬太傳十七章にエスの味は宗教的趣味に外ならないのである。エスは三

「永生」を高調して居る。しかも彼は神を直覺して喜んで居たと言はれて居る。又かの釋迦の目には神はなかつた人生は無趣味であつた。しかし彼が出家してかの菩提樹下に沈思したる時に、美しい宗教の世界を見出して滿足したのである、孔子も「我禱る事久し」と言れて神明の世界に遊ばれて居たのである

靈的妙味

この無趣味なる人生を趣味あるものになさんが爲に或は音樂に行き、文學に行くも必要であらふ。然し一朝人生の危機に際したる時、人生の深みに沈んだる時なほ味ひ得る趣味、我々の力となり我々を救ひ出し得る趣味は何であらうか。前に述べた先哲達

交る事を敎へられたるキリストの神に祈る事である我を忘れ周圍を忘れて神と語る人となる事である。我々は如何ほど永年住みなれて居つても最も樂し

への趣味は外
のである。即ち馬太傳十七章にエスの味は敎的趣味に外ならないのである。エスは三を連れてヘルモン山頭に至り、モーセエリこの靈的生命の最も深遠なる趣味を味はれる。キリストは全く神と一つになり衣も顏のである、この光景に接したる弟子達は全打たれて永遠にこの美しき境涯にとゞまるしたのである。なほかのパウロはコリント章に「彼第三の天に取り去られたり。彼パに取り去れて言ひ得ざる言葉、人の語るまさけり」と言つて居る、即ち彼の深遠なるは彼をたづさへて神の前に至り神と顏と顏言ふべからざる喜びの內に神と語る事がつなさしめたのである。

祈によつて得る

ひのある靈的生命が如何にして得られるで交る事を敎へられたるキリストの神に祈る事である我を忘れ周圍を忘れて神と語る人となる事である。我々は如何ほど永年住みなれて居つても最も樂しいのは寄宿舍ではない、父母のゐます我家である、例へ破家であつても金殿玉樓にかへられない親みがある、そこに父母の愛を味ひ得るからである。「我たましひは生ける父をしたふ」我が神は父である、悲しみあれば父に訴へ、愛あれば父に行く、この父を慕ふてやまぬ處に宗敎の生命が生ずるのである、永遠より永遠に生きる魂が、生ける神を父として慕ひ求むる時に顏と顏とをあはせて父を見る事が出來交る事が出來るのである。この靈的趣味は我々を人生の無趣味より救ひ、人生の危機に際しても、又瀕死の折に際しても消えざる喜を味ひ輝いたる顏を以てこれにあたつて行く事が出來るのである。

終りに詩の廿三篇、馬太傳十七章、コリント後書十二章など靈的趣味の深々たる處を讀み、人生の興

五六年前から我國は工業地として農村に工
場に増設され、それに伴つて職工が増加して
その中でも所謂女工が多い。五六年前迄は、
見出された女中が、今日はなか〲見出され
ないのは皆この増設工場に收容されるからで
世人が彼等を如何に迎へつゝあるかと云ふ
種の冷遇、侮蔑を以てして彼等をどうでもよ
導き、「どうせ女工ですから」といふ考へに
知らぬ間に墮落の淵に陥れてしまふ樣な結果
なのである。女工に關しては「二十世紀の大
婦女職工問題の解決にあり。」而してこれを解決

と、英國は一九一二年に於て男六に對し女四
九〇九年に於て男五に對し女五、獨國は一
に於て男六に對し女四で實に我國女工の

工を有する工場は八二七四にして職工數は四八三八九人である。それが大正五年になると工場數一五〇一九、職工八六三四四七になつてゐる。これ等多人數が夏の炎熱の中に黒ん坊の樣になつて働いてゐるのであるがこれに對する解決がつかない以上どうしても我國は優勝國となることは出來ないのである。

我國の工業の中で多數を占めてゐるものは、染色工業であつて、製糸・紡績・織物・綿紙・編物・刺繍・眞綿等が重要なもので、其の工場の數は實に八千にのぼつてゐる。

今日我國に於ける男女工の割合を見るに、男三に對する女七であつて、これを英、米、獨諸國に比較し

かの諸問題について考へてみたい。

工場は利益本位であること。工場設立に對しての

に於て、男六に對し女四九〇九年に於て男五に對し女五、獨國は一に於て男六に對し女四で實に我國女工の多て居る事は夥しい。次に女工の年輩を考へ十七才より二十才までが尤も多く長岡製糸ては十八才が最高を占めて居る。この年輩上かつ又婦人としての立場からみても、恐がある。工場に共通な病氣は肺病であつての非常に肥滿せる女でも、工場に連れてこら一年半の後には實に色青褪めて瘦衰へ、ない樣な人に變つてしまふのである。明治から三十九年迄の死亡人員の比例をみるに二十才男八に對し女十三、二十才—二十五に女十三、廿五才—卅才男八に女十である。場がその制度、組織、方針を改革しなかつた漫なる殺人罪を行ひつゝあるのであつて一るものが十ケ年間に殺されるであらう一と

かの諸問題について考へてみたい。

工場は利益本位であること。工場設立に對しての三要素は何かといふに、原料・資金・設備であつて、これが完全に調達することが出來たならば成功すると思はれてゐた、然し今日は是等の三要素が完全にせられても工場は運轉しない。それは何かと云ふと今日まで全く顧られなかつた職工問題である。

國家の大問題として考へねばならぬ事は「頭數の多い割合に仕事の量が多くない」といふのであつて勞働長の頭にも動かない所の磐石である。アメリカの或工業家は云つてゐる。「日本の賃金は非常に安價であるが、これは恐るべき問題であつて原料の豐富なのに對して作業能率が低い。だからまあ安心してよい」と考ふるべき言葉だと思ふ。今後農村が工場化して來る場合に於て、吾人が尤も力を入れ祈りつゝ研究しなければならぬ問題は實に工女問題であつて、且つ國民が內に動く狀態、作業精神といふもの

劣等者の女の多きこと、
一家をなせるものなし、
一家をなすも家族的ならざること、
生活上の不平均、
自己の職業を重んぜざること、
解决がつくならば光明が發見されることゝ
上の問題中二三につきて、いさゝか詳しく
やう。
工の多き爲にこゝに一組織を生じた――寄宿
宿舍は家族的な生活でなければいけない。
心地のよい、そして靈氣に滿され一日の勞
に於て洗ひ流され、神よりの救によりて新
得て務める、といふ風になりたい。然るに

まだひどい」「寄宿流れて工塲が燒けて門番虎列拉で死ぬがよい」と歌てゐるのをきいてもすべてが知られる。宜しく工塲主の頭を改良するにあらざれば寄宿舍改良は不可能である。内務省の檢べによりて一人の工女を募集するに要する費用は、實に三拾圓なりといふ。故に工女に同情の無いものは、彼等を使はれる丈使はふとするので、其處に反抗心が起つてくる。誠意の無い者が製造したものにどうして立派な作品が出來樣か、表裏あるものゝ造つた絹糸は同じ四億萬圓の價のするものであつても、伊太利に比して二割安價にしか賣れないといふ現象を生じてゐる。且又工女爭奪が行はれてゐる。永續しない工女、一時間に合せの者に立派なものが出來樣筈がな

の家庭は失敗、不遇、失望者によつて滿さ
。「自分は工女だからどうでもよい。どうせ
心にはやはり優しき仕事が出來る。一人が一日に一

『自分は工女だからどうでもよい。どうせではないのだから』といふ樣な觀念を取らざれば彼等を改良する事は不可能であるに以上のごとき諸問題は考へなければならあつて一方工場主の頭を改良し、且つ工女ウデモヨイ主義から脫しさせ、何處迄でも使ひ、教へ導くことが大切である。優しき心にはやはり優しき仕事が出來る。一人が一日に一匁の糸の卷は容易に出て來るのであつて、それが一年となり數百人となる時にすでに捨て去らるべき糸が莫大なる金子となつて現はれて來るのである。故にこれが解決は實に主の愛心に滿されたる方面から改良するのでなければは、到底出來ないものであることを信ずる。（か　責在記者）

覺めたる婦人の煩悶と覺悟

名出保太郎

智恵多ければ憂多し

しく信者になつた人が『先生、私は信者につた方が幸であつたと思ひますが、違ひまか』と言つた事があつたが意味のある言葉思ふ。信者にならない内は良心の責が少な

に、小い惡を犯しても心苦しくてならぬのである、この種の煩悶は信者になつて間のない人々に多いと思ふ。

何事によらず物を知らぬと樂であるが少し物を知つて居るが爲めに心配が多くなつたり、おそろしく

て、それでは物を知りたくないかと言へば
物知りにはなりたいし、苦しみが多くとも
の救は受けたい、苦勞が多くとも智者には
と言ふのが人情である。

婦人の煩悶

味から言つて現代日本社會に於て最も苦し
最も同情すべき者は教育ある若い婦人であ
。又日本に於ける婦人の位置ほど哀れむべ
ない、婦人に正當の位置を與へ各種の婦人
しく解決せられなければ同胞は決して幸福
は出來ない、現代社會は進步して居ると言
現在の如き婦人の狀態であるならば日本の
つこであると言はねばならぬ。現に男のぐ

あらふが顔がどうであらふがそんな事は考
に入らねば他に慰藉を求めるのである。然

は婦人方の教育も識見もある婦人が出席せられて居
つたが女であるが為めに出なければならなかつたの
である。英米では婦人參政權を得たとか婦人が兵士
になるとか言つて居る今日、日本のこの狀態を見て
婦人の為めなげかざるを得ない。次に實際問題にし
て婦人一生の大問題たる結婚を如何に取扱はれて居
るであろふ。更に悲慘なる狀態を見出すのである。
結婚せんとする若き婦人は夫たるべき男子を撰擇す
るの自由が與へられて居ないのみならず、發言の自
由さへも與へられないのである。即ち人と結婚する
のではなく家或は財產地位などと結婚するので、又
これについては絕體に兩親の意見に從はねばならな
いのである。そして結婚後はどうかと言へば男子の
方では勿論、財產と結婚したのであるから妻の趣味

それは極く少數者で、多數の婦人は良妻賢母となら
ねばならぬのである。

…に入らねば他に慰藉を求めるのである。然…は生涯の運命を托すべき夫であるから、種…づかひをして嫁く、嫁いで見れば夫は自分…いで不品行を續ける、家では姑が女大學の…りまさ、實家へ歸れば父母は女の運命であきらめよと言ふ、訴ふべき處を持たぬ婦人煩問の結果病死するやうな事件が幾つとなくして居るのである。

婦人の覺悟

煩問の多い、趣味の異つたる實社會へ出ねば若い婦人達は何を覺悟せねばならぬのであろ…つて六人の娘を以つて居る婦人が自分は娘…嫁にやらないと言はれた事がある、然して…來ない事である。キリストの弟子も或時この…はれた事があつたが、キリストは「授けられ

…それは極く少數者で、多數の婦人は良妻賢母とならねばならぬのである。

この時にあたつて覺めたる婦人の覺悟すべき事は多くの踏みにじられたる日本婦人を救ふ爲めに已れ先づ犧牲となつてキリストの御足跡を踏み、負ひ難き十字架を負つて行く事でなくてはならぬ。即ち「人若し汝の右の頰を打たば左をも向けよ」、「一里の公役を強なば二里行け」この二里主義を實行するの覺悟がなくてはならぬ。而して姑を導き夫を愛を以て變化して行く覺悟が必要である。

事件の裏面には女があり、男子の背後には必ず女子があるのである。古今東西を問はず偉人の背後には或は賢明なる母があり、妻がある事は歴史の證明して居る處である、故に靜かに男子を勵し社會を動すべき力ある婦人がキリストのみ足跡を踏んでおだやかに十字架を忍び、「我すでに世に勝てり」との眞の勝利を味ふ時に婦人の地位が認められ、婦人自らの自覺も徹底したと言ふ事が出來るのである。

と思ふ。かく云へばクリスチヤンは西洋人
崇拜する如く思はれるかも知れぬが、眞の
ヤンが基督教の歷史の新しい日本よりも、
い西洋に於て多いのは當然の事である。
紐育オノボンの神學校の希伯來語の教師ビ
氏を擧げたい、自分は彼から三年間希伯來
會話を學んだのである。今日自分は希伯來
で忘れ盡してしまつたやうではあるが、ビ
氏即ち、書物の影にある人は忘れる事が出
である。元來希伯來語は難しいもので、學生
怠惰でも少し勉强した方がよくはないかと
程であつたが、一度もこの先生は怒つた事
た。三年間一度も嫌な顏をした事がなかつ
る。この世には生徒に對する愛の爲叱責す
へば希伯來語で長く引き伸すといふ意味で

先生になりたいと思つてゐた。先生は隨分生徒を叱
つたもので、長い笞を自分の机の側にひかへてお
き、生徒が惡い事をするとそれでその頭を叩くので
ある。面白さうなので自分もその笞を用つてみたか
つたのだ。こんな風に先生とは叱るものなりといふ
考がしみ込んでゐたからして、このピーチャー先
生は不思議に見えたのである。ある時そのお宅に遊
びに行くと、夫人が長椅子に橫つてゐた。そして起
き上りもせず、そのまゝで手を出して握手したので
あつた。聞けば婦人は非常に長く病床に在つて苦し
んで居られたさうであるが、先生はそれにも拘らず
初めてのお子さんのお生れになつてより後、終生共
に夫人をおいたはりになつて一度も嫌な顏をお見せ
にならず、お怒りになつた事もなかつたさうである
は何も云ふ事がない。併し唯自分が主イエスキリス

へは希伯來語で長く生き伸すといふ意味で
して長く苦しむといふのであるが、先生は病氣によつて此の忍耐をお學びになつたの生徒も終にその忍耐に動かされて勉强せずれなかつた。

ダーウインといふ先生があつた。神學博士度も著書を出版した事がない。人がその理に先生は、生徒各自が立派な書物を書き得教へなければならない責任がある自分は、ても自分の著書なんかする暇がないとお答たさうである。神學は絶えず色々な議論がが絶えないで難しいものであるが、自分の時間議論が絶えないで、ある時間など初か質問と先生の答とであつた事もあつた。あは贖罪に就いての議論が始まり、自分のや言葉の使へないやうな者迄片言混りに熱す

は何も云ふ事がない。併し唯自分が主イエスキリストの血によりて救はれてゐる事は確であると。そしてその時には兩眼に一つぱい涙を溜めてをられた。先生は學者であつて多くの書物を讀破せられてゐたのであるが、眞にキリストの救を知り、キリストが我々の爲に苦しみ死に給ふた事をお信じになつた。イエスの十字架の血はいくら神學の書物を讀んでも解るものではない。熱い涙を以て祈り得る時初めてこれを知る事が出來るのである。先生は獨身でお妹さんと御一緒に暮してをられたが、學者の妹さんで家持が下手なので宿屋住居に移られた。私は度々食事に招かれたが、晝食になると、必ず一片のパンを取つて、聖晩餐の時のやうにそれを細かく切つて軒の雀共に分けてお與へになつた。サバティエの書いた聖フランシスの傳を見ると、彼は非常に優しい心の人で時々野に出ては鳥共を集め同胞なる鳥よと呼

大切である。日本には武士の情と稱する言
。日本では今は女も同じく武士だ。今に武
て立たなければならない日が來るかも知れ
我々は、この義の爲めに立つと同時に、こ
持たなければならないのである。
治三十年の今頃の暑い時分、自分は獨逸の
ふ所で貧書生であつて、奨學金を受ける必
を受けて疲勞してゐたのである。其處へあ
友達で瑞西の佛蘭西に近い方から來てゐる
通の手紙をつきつけて君如何してくれるの
。開いて見ると、お前の友達の日本人の事
非この夏は伴れて歸れ、もし一人ならば歸

朋は米國あたりの金持の客對手であるから
じある。困つて徘徊する中一人の農夫に逢
閉を打明けて相談すると自分はちよつと田

奨學金を得たり先で働いたり友達の家の滞在費の要
ない事などから考へて終に一緒に出立する事に定め
たのである。途中チユーリツヒまで來ると、そこか
ら左と右と兩方に分れて風光明眉の土地があるから
是非見物して行きたい。しかし友達は左の方の道は
一度通つた事があるから君は右の方へ行き給へ僕は
君と別れて行くからといふ事に定め、僕の船は少し
友達のより遲く到着するから向ふで待つてゐるとい
ふ事になつた、さて無事目的地へ着いてみると、友
達は來て居ない。次また次と船を待つたが友達は來
ない、その中夜になつてしまつた。自分達は宿貨と
して五十錢しか使用する事が出來ない、しかしその

方の方言をよく解する友達があの老婆とよく〳〵話
してみると非常に親切の深い人なのであつた。しか
もそんな由緒ある家にたつた一法で親切に泊めてく

…を打明けて相談すると自分はちよつと田
…來てこれから歸るのであるがよい家があ
…つて、ある一軒の大なる枯色蒼然たる百
…してくれた。これは昔宗教改革者のイン
…たといふ由緒のある家だつたのである。
…の歯のない皺くちやの老婆が居た。自分
…らないのでその老婆が何を云つてゐるか
…解する事が出來ず、何となく底氣味惡く
…が食事を供された後二階を指して寢よと
…な手眞似をするので、兎に角二階のベッド
翌朝旅籠賃はと云ふと二十錢といふことと
…其家を出て波止場に行てみると、私が居
…何した事かと案じてゐた友達に出逢つた
…通りに着いて私を待つてゐてくれた。さ
…の泊つた事を話すと彼は非常に羨しがつ

もそんな由緒ある家にたつた一法で親切に泊めてくれるので四日も止つたが、その日二人はギー山に登る事を思ひ立ち、朝二時にといふ約束をした。すると翌朝私共はきつちりその時間に起され熱い珈琲を頂いてゐると、裏の庭の方でバタンバタンといふ音がする。彼の老婆は月光の下に梨まで取つて登山中の渇を醫すやうにとの事であつた。ほんの小い取るに足らぬ事のやうであるが我々に取つてはそれが非常に嬉しかつた。しかも結婚したならば必ず新婚旅行には自分の宅に來てくれよとの約束までしたのであつた。予はこの親切な老婆を一生涯忘れることが出來ない。書物を讀むのはよい、けれどまだ未製品である。眞の美しい話といふものは記されてゐないものである。基督病的英雄の傳記は見えない。記されない。隠れたる所にあるのである。しかもよい話

ぬ。けれど彼の獨逸人の中にも多くのよいものを忘れてはならない。自分が嘗てビルに教師が云ふには、君の論文は立派だから出る故持つて來いと。自分は教師の添削を乞ある出版會社に送つたのに、數ケ月經つ返事も來ない。聞き合せてみれば、まだ受との事である。自分は非常に怒つた。ほんほど腹の立つた事はない。よく遊びに行つマン夫人の所に行くと、一體あなたはどうあるかと問はれた。それ程私の顏色は變つ。事情を話すと答はあなたは祈りましたかつきりと答へる事が出來なかつた。夫人曰

であるに、人の作りし神にあらず眞の神何物をも祕密にする所なく告げ得べき神を信じてゐたのである誠に自分に眞の實在の神を知らせてくれたのはこの夫人である。

以上の例には皆大きい泉がある、即主イエスキリストその人である。この人は今日我等の肉眼を以て見る事は出來ない。けれど多くの愛に滿ちた人々の中に之を發見すべきである。

　子もふまず枕も踏まずほと〻ぎす

お互は愼深きものでなくてはならない。かくして基督教的英雄の中にイエスを見ん事を願ひ努めやう

（在文責記者）

よき働

吉川起行

き、そは主イエスの働きなり。吾等は先づ

に對して何等攻擊する所なかりしなり。吾人が信仰

き、そは主イエスの働きなり。吾等は先づ日の働きにつき考へたし。彼れは人の子と生れ給ひて實によく働き給へり。かの荒れから彼れを起しまつること能はざりしにあ

ノ二、一―三四）に書き示されし一日に於何なる信仰をもち、如何なる動機に於て、ものを味方とし又敵としてこれを愛し憎み程全力を盡して努力し給ひしかを知るべし於て第一の出來事は彼カペナウンの町の會息日に敎へ給ひし事なり。實に彼れは世界革者なりき。而して如何なる方面に聲高くびしや。當時に於ける制度或は文物を悉くとしたるか否彼はかゝる手段は毫もとらざに此の日會堂に入りても複雜にして徒らに

に對して何等攻擊する所なかりしなり。吾人が信仰の足らざる時制度或は組織は非常に大なる權威あるものと見ゆれども、一度信仰の力を得たる時にそは小にして且何等恐るるに足らざる所のものとなる。

凡ての方法は精神より生み出さるべきものにしてそれが精神無きものはその根底より自然に倒れ亡に至るべきものなる事をイエスは知り給ひしが故に彼は口を閉ぢてその事に關しては語り給はず根本的精神に入り而して人々に力と生命をあたへ給ひしなり

吾等信仰生活にあるもの又世に處してこの心掛必要なり。即ちあくまで精神を眼目とすべきこと、制度、組織を功擊するも眞の改革は能はざるものなるを。

次にイエスは汚れたる鬼に憑れたる人の喊叫しに一喝して口を止むる樣嚴命せられたる事なり。何故

…その汚れたる靈に言ふ事を禁じ、讃美さるゝ事を好まざりし音宣傳の權威を落すものなるを知り給へばには全く自己中心にて我の都合よき時、我る時に遵ひて節を幾つにもなして恥ざる者等はかゝる人に向つてこの權威を行はざる。かゝる汚れたる靈の讃美は絶體に退けざず。頭を低うして求むるの要なきなり。シモンの家に行き其母を癒し給ひしことなはてゝに二つの學ぶべき事を敎へらる。そモン自ら主に云はずして、或人を通して告とにして、眞によく師を尊ぶの念がうかが

盡すべきなり　我等にもしも神の爲にすると云ふ精神が根本となりて行ふにあらざれば如何にその事業は大なりと雖も或は僞善に流れて、徒らに虚榮の徒となるを免れざるなり。

信仰と行これ實に一にして二なるものにあらざるなり。クリスチヤンの理想とするよき働は善事を盡してなすことにあり一部を與ふること、そは實に輕蔑に過ぎない。自分の尤も大切なるものを與ふること即ち慈善なり。時爽にイエス早く起き人なき所に行き其處にて祈禱せり。この祈禱こそ實に彼れの御一生を通じて行ひ給へる總ての御業の泉なりしなりこの御心によりてこそ總ての御業は生れたるなれ。

（在文責記者）

修養會の印象

――神戸修養會に臨みて

東京女子大學　飯沼幾子

神戸修養會に臨みて

東京女子大學　飯沼幾子

れも燃え立つ様な鮮明な色彩は見える。夢現實の光に充ちた深刻な形象は見られるるのを見出さうとした時に人は若やかな努痛ましい努力とも云へる、それは本當に様なものであるから。然し又、それは美しも言へる。何故なれば、そうした努力をす自身が美しい幻であり、夢であるから。に力を盡して努め得る人は幸福な人である人でなければ眞の同情を知らぬ。私共はか養者になりたかつた。そして修養會に出は長くもあつたし、又短くもあつた。私は全體を通してクリスチャンの生きた力をみ迫つて來る力の渦中に包まれて自分も亦、自らを治めようとあせつたこともあつた。兎に角かうした集會から受ける一種の壓迫は自巳の反省を促す。

倦怠と緊張との爭鬪を見たが、いつでも緊張の感の勝つた瞬間に犯すべからざる生命の閃を見た。雄々しい自信の微笑と喜しい信頼の輝とをも見た。

集會が多いと飽きるといふ。熱誠がなくなるといふ。そういふ人々は永久的努力を知らぬ瞬間的な發作的な熱誠の憧憬者であらう。然し私はかうした人々の中に、自らのみじめな影をも見出さずにはをられなかつた。永續的な信仰の樂しさを、ふとした氣まぐれの折々に忘れた事のあつたのを、恥しく思ふ。然し絶對の力が集會を一貫して動いてゐたのを、私

しい純な動搖と　の色の懷しさを　と
忘れにはならないと思ふ。
り し人々と、互に消え難い深い印象の中の
つゝ、私達は別れた。西へ、北へ、ちりぢ
た。堅く結ばれたとは思へない。只假初に
計りの、ゆるい鎖は、解けて離れてしまつ
其儘になつてしまふのが自然の理に添ふの
ない。けれども一度、共に同じ會堂に、同
仰いだ慈愛深い「主」のみ顔ばかりは、永遠
とはないと信ずる。「主」は總のものゝ心の
表徴でいらつしやるのだもの、そこに於て
になる事が出來る。
は走つて行つた。をかしさを包んだ様な笑

其行よ　の耳　行　し　の

さらば別れし姉妹方よ、みどり懷しい女學院の最
後の夜を思ひ出して下さい。蠟燭の光は震へてゐた
「信仰もし行を兼ざる時は死るなり。」強い言葉、鋭
い言葉を師より給はりし友だちよ。受けし惠を、愛
する同胞に傳へませ。生の限り、主のみために、共
に勵むことの嬉しさよ。
幻を愛して夢を愛して、まことの同情をもつて、
わが同情のため主の御用をつくしたい。

（大正七、七、廿九）

皆様が御親切

武安愛子

戸の夏期修養會にまゐりまして多くの御惠
分に得ました。あの涼しい校庭の芝生の上に坐つ

戸の夏期修養會にまゐりまして多くの御惠て歸り感謝して居ります一人でございますはじめ神戸女學院の皆樣が親切にして下さので遠くからまゐりました私等も少しも心となく樂しい一週間を過しました。私は修今度で二度目でございましたが、又充分なただくことが出來ました事を深く感謝致し堂での禮拜を以てはじめ、それから晝は聖や有益な講演など伺ひ私共の魂の糧を充分に得ました。あの涼しい校庭の芝生の上に坐つて皆で靜な夕べの禮拜を共に致しました事など一つ一つ新らしい記憶となつて殘つて居ります。殊に組合の時はいつも一日中に感じました事互に語り合ひ勵し合つて感謝し祈りを以て終りました。この樣にして聖い日々の間には樂しい親睦會へ遠足があつて愉快な時を持つことが出來ました。尙學校に歸りましたらこの多くの御めぐみを皆さんに御分けし女子青年會の爲に盡し度いと存じます。

神の子たる幸福

柴田英子

待ちし修養會も遂に終つてしまひました。て初めてあの樣な美しい會に出席致す事が事をほんとに心から感謝致して居ります。最後の日の懇親會の莊嚴でございました事は今も尙目前にう

生が詩篇の百二十一をお讀みになつた時は、云はれない感に滿され、神樣の御惠み御愛のる事が益々深く思はれ、感謝と喜びに胸がせ涙がとめどなく頬をつたつて流れ、其夜汽車事のみ思ひ續けて居りました。暗くあつた中ツと燈された蠟燭も暫くして消されもとの空に月光を浴びて一同が神に祈を捧げた其時皆樣も同じ思ひでいらつしやることと存じま此瞬間私の心中にもつと〳〵青年會の爲に限り盡し度と云ふ考がおきました。始めて母を離れてあの樣な會に出合ひました私には分が早くより神を知り．神の子と公に認めら

知らなくつて恥かしう御座います）苦しい立場にいらつしやる方のある事を知り、自分の順當の立場を考へ本當に感謝致しました。又時には惠になれ過ぎて我儘を致します心を悲しく思ひました。今私は幸な位置に居りますけれども、これから何時どの樣な場所に行き苦しみ困難にあひます場合がないともはかられません故、うけし御教訓を常に心に思ひ今の幸福を感謝してこれからの事に耐へ得る樣心の中に準備を致しませうと存じました。

早天祈禱會と夕陽會

水野美和子

く朝日と共に起き出でまづ第一に美しい青

の中に深く〳〵滿ちて居りました。この美はしき自

く朝日と共に起き出でまづ第一に美しい青神様を拜する程心の淸い聖い時はありませ此度夏期修養會に始めて神戸に至り此淸いらるゝことをほんとに知りました。

八日朝五時半から林先生の御司會のもとにの早天祈禱會がありました。此の日は空が少し雨が降て居りましたから講堂でいたしあたりは靜かで鳥の鳴き聲さへもかすかでた。讃美歌百二十三を歌ひ聖書は路可傳十節をお讀みになり、數名の者が祈りをし二番を歌ひ、各〻淸い思ひをいだいて去りま十三日の早天祈禱會の時には空晴れわたり誠に心地よく私共は元氣よく起き出で、まりと露をおびて居る芝生の上に參りましたは此の露茂き芝生の上に輝き初め大樹はま

の中に深く〳〵滿ちて居りました。この美はしき自然にふれつゝ神様を讃美し祈り神様の御書を味ひました私どもの心中には、より以上の神樣の御眞理をさとり、神様の偉大なる御大恵を知りこゝに神様に對する眞の感謝と喜こびを得ました。中路先生の御司會のもとに此の美しい中に聖なる早天祈禱會を開き、詩の百四十一の八、四十一、十六をお讀みになり、愛する姉妹の厚き感謝の祈りありて讃美歌四百五十三を歌ひ終りました。この早天祈禱會によつて得ました印象は、實に〳〵深くきざまれました。

夕日しづみ行く頃私どもの一日のつかれを去り涼しい姿をして木蔭に打つどひ、神様を讃美し夕べの祈りを捧ぐるのも亦樂しいことでありました。十七日午後六時半から塩見先生の御司會のもとに夕陽會が開かれました。私どもは芝生の上に出で薄い夕日

三の讃美歌を歌ひ　各々座を立ちてし
日、二十二日もこのやうな美しい夕景、私
楽しい集ひを開きました。十九日は佐々木先
司會で聖書はコリント後書三章の十八、ピリ
の十二、續いて先生の御感話あり私どもは日
たかなる靈の糧を與へられて居るその大なる
御惠を感し、神樣の御使命に對して一層心を
れました。二十二日は藤田先生の御司會で馬
章三十四—四十二。ピリピ書四章の十一—十

は打つけられずして各々心を強められました。
私は今年初めてこの修養會に導かれましてこのやうな云いつくされぬ靈の糧を與へられて大なる喜こびを得その御惠に感じ、その上此の早天祈禱會と夕陽會によつて亦特別の感にうたれ、ほんたうに心は洗濯されて只清い聖い思ひに滿されました。又來年は一人も多く此の修養會に導いてこのやうな賜を與へたいと切に〳〵思ひました。

修養會は神樣のもの

大阪　中路ちか子

の大なる御祝福の裡に最も美しく且つ生氣に滿ちたる修養會をなされ候て、指導者諸先生方の御
やと推し上候。小さき婢ども又今年も御惠を愉快に心嬉しく生活いたし申候。女子青年會の主
用ひ下されて、御用の一端とせられし事を義精神を會得すればする程嬉しく、實に現代の青年
謝致し居り候。昨年よりも今年は又一しほ女子の指導する上に於て、これ程適應したるものは

…ひ下され…御用の一端とせられし事を
致し居り候。昨年よりも今年は又一しほ深く感ぜられ何だか之がある先生方の催一ふやうな心地は少しも起らず、全く私のはその内の一人、もつと言葉を強めて云へば、而して神様を中心として先に撰ばれ者と基督者が心を合せ、祈りつゝ、省みつ姉妹方の爲に我を忘れて一意專心になす一しいふやうな氣分に充されて、かの一週間

義精神を會得すれはする程嬉しく、實に現代の青年女子の指導する上に於て、これ程適應したるものは御座なくと存じ申候。歸宅後も少女の組の姉妹方よりの愛らしき御消息などに接し涙の出るやうなうれしさを味ひ申候。涼しき木陰にてあるは草の上にて敎室にて、共に歌ひ、祈り、語り合ひし時を覺え、その姉妹方を覺え、樂しき思出を辿りつゝ今はその方々の爲めに祈りを居り候。

若き人々の所感

神戸出席者

は梅花女學校の子供が二人、西野先生の聖者が志道より決心に至りました。女子學院婦人の金さんが最後の日に三分間の話をさへ、羅馬書の組に出席して、今迄の失望悲…

少女の組の一人は家庭に歸り、是非々々弟を導きたい決心をしたと申しました。まだ〳〵澤山ありましたがお目に懸つてからに致しませう。

香櫨園に參りました。此所は又家族的な小集會で

修養會も終りました。私達は多くの事を學

。これからは今迄よりもずつと異がつた心のよい子供になる考で御座います。これかをもつて信仰を實行に現はす覺悟で御座いの第一歩として、尙絅ゝ學校の寄宿舍で先の通り、私は無駄な飾を廢止の實行を初めました。日本の女子達には指輪や簪よりもつと大切なものが必要である事がよく解りました。私は神樣の御心に適ふよい美しいものは何でも愛す子供となりたいと思ひます。そして、髮に花を飾る代りに心の中に美しい花を咲かせたいと思ひます。

●消息

な姉　米國桑港に御住居なる同夫

堂見舞のため夏期御着京

姉　六月下旬男子御分娩

子姉　七月男子御分娩世子御壯健

子姉　七月神戸にて御夫婦共に御

子　今回米澤高等女學校を辭職さる

○加藤ふじ子姉　八月御郷里にて結婚式を擧らる同氏は加藤高子姉の御令妹なり

○齋藤みどり姉　七月留學の目的を以て渡米されたり

○エデー夫人　二ヶ月間日本に滯在して諸青年會を訪問されし同氏は仙臺修養會にも一日列席され廿五日歸國されたり

○留學生　阪本花代、大呑久子、横澤衣子三氏は九月より紐育市にて勉學の由

○星野愛子姉　八月中旬御渡米、紐育市カランビヤ大學に御研究の目的なり、同伴にて女子英學塾卒業生瀧澤姉も御留學のため渡米さる

○幹事の消息　八月中外國幹事大數は輕井澤ミスヘードは朝鮮、河井、渡邊兩氏は北海道、加藤氏は新潟縣村上、佐藤氏は伊香保堀氏は房州にて元氣旺盛なり

親睦會の印象

小西静子

禱會に聖書研究、夕陽會など一日數回の御集

理想を描き乍ら定刻にはそれらの人々で會場は狹い程になつた。何處の學校だつたか確には覺えないが三四人の甲斐〴〵しい「東西……」によつて幕は開かれた獨唱に合唱、ダンス、對話或は奇術、

小西静子

聽會に聖書研究夕陽會など一日數回の御集ハート形のカードをつけた會員は各々心にりて修養會の興味益々深うなつた十八日—の炎熱で草も木も萎れはてた午後三時から廣間で親睦の會がひらかれた。

一望の中に集め人烟を眼下にせる瀟洒な日敷は絶えず冷風に訪れられて其度に眞白いはユラ〳〵して見るからに涼しい。二時半頃から笑聲や、歌聲が聞えて居た。心持勾たコンクリートの道を白い布や机なんど今を賑はす餘興の材料を運ぶ人が小走りに急「今年は例年にない多數の出席者其中には來た支部もあるから親睦會がさぞかし面白・……我が支部こそ斬新の餘興を……新選

三四人の甲斐〳〵しい「東西……」によつて幕は開かれた獨唱に合唱、ダンス、對話或は奇術、プレイ何を云つても全國より集つた十數の支部東西南北其土地の風俗特長を遺憾なく發揮した言葉に態度……拍手は休みない會半にして茶菓の御馳走、二列に輪に座つた一同は互に語りつ笑みつレンズに入る時の外絶えず賑やかだつた海山遠く離れたはらから御神によりて結び合しを今は目前に、かくも樂しくまとゐたる感謝と喜びは各面々に溢れて居る。昔キリストは「兄弟よ心を同うせよさらば平和の神汝と共ならん」と仰せられた「一致と平和とをもつて世になすつとめをはたしませう」と固い決心と勇氣とを抱いて興つきぬ會は閉じられた。「森のペアさんは可愛い—のね」「パラソルダンスは京都式ね」「さすがは英學塾」「たましひの洗濯所は滑稽でしたね」などとりどりの批評は閉會後取り交はされた無邪氣な會話であ

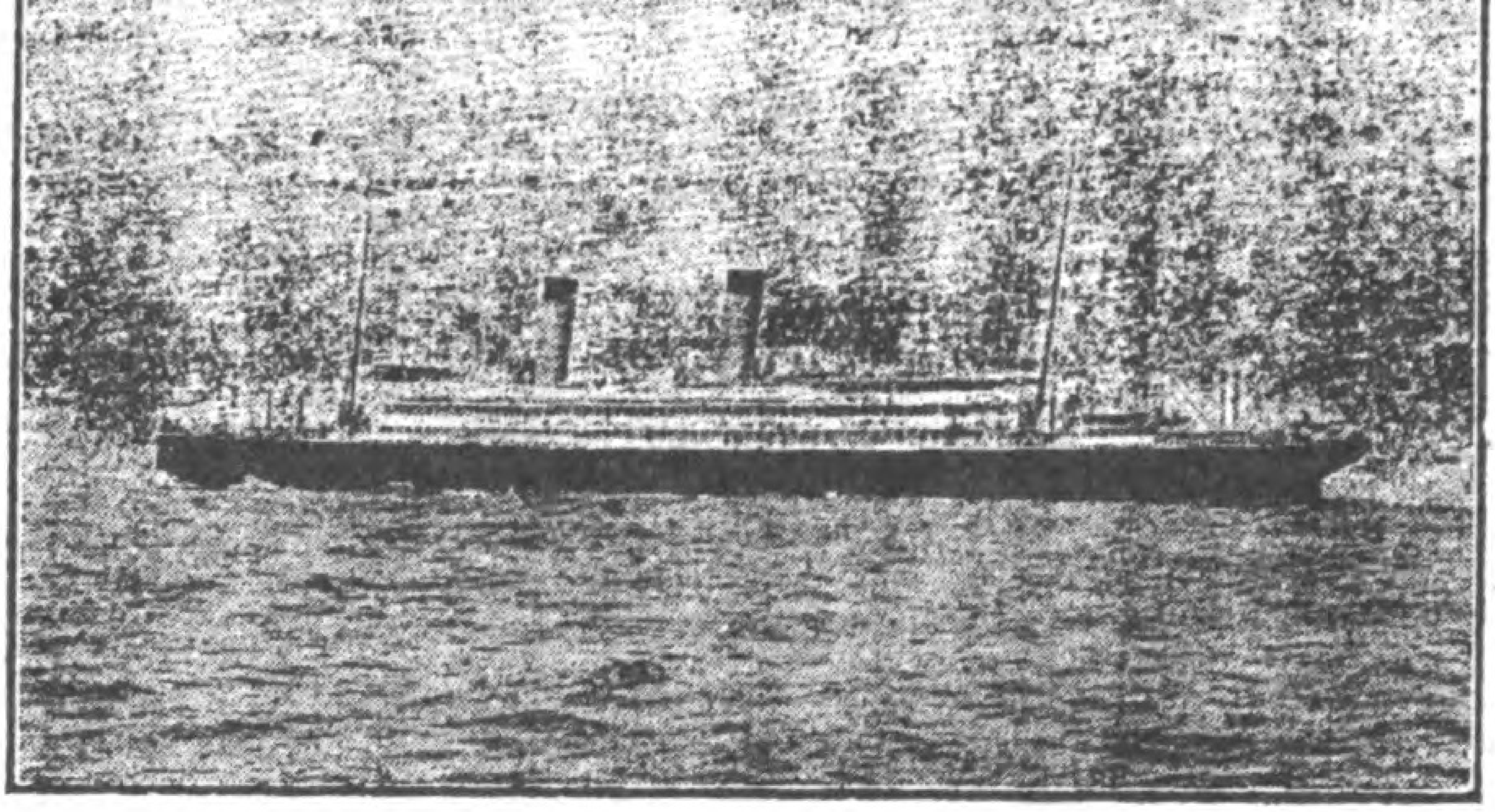
り日光の傾きかけた廿六日の午後三時半
見下した裏手の芝生に蓆を敷いて、三々伍
どひながら開會を待つた。樂屋にしたてた
影から進み出た藤島さんがプログラムを讀
見物の瞳は等しく期待に輝くのであつた。
音樂家と名のり出たフエクスの方々のワン
ヤー〳〵、チユー〳〵の歌も愛らしく、い
買をうまく歌ひ込んだ女子學院の歌も面白
頓智救命」と題した搜眞女學校の對話は、
リーの僧正の話をなほしたもので、其態度
表情といひ、いつもながら感服の外なかつた
子青年會の「靈魂の洗濯所」はさすがに大
遺憾なく茶目式を發揮したものであつた。
んが店をはつてゐて、通りがゝりの人をそ
かまへて不當な代金をとつて靈の洗濯をし

服の上に新聞紙の上［…］
つしやる。つゞくひき手は箒片手に笑をこらえてゐる。すつかり義太夫式におじぎをして、さて「デデン」と三味が鳴ると、「エヽ、せいねんくわい……なさけない……」など、頭を振りたてゝ黄色い聲をあげる所、女義大夫そのまゝ、皆々笑ひこけながらどこであんなにお覺えなすつたんだらうとたゞ〳〵感心してしまつた。

一番後で終始お父樣の樣ににこ〳〵見ていらしつた新渡戸博士は最後にひつぱり出されて、くりぬいて洗つた眼玉を鳥に食られて、犬の眼玉を人に入れたといふ面白い眼醫者の昔話をして下さつた。

かくして樂しい會は日沒近くに閉された。青い芝生に散りまかれた若い人々の顏には、包みきれぬ樂しさ嬉しさが微笑となつて表れてゐた。





營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング マニラ チヤコビルヂング、桑港、マーケツト街六二五、マーチヤンツ、ナシヨナル、バンクビルヂング）

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量 二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同 二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同 二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同 二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同 一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同 九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量 一八、七〇〇噸
紀洋丸	同 一七、二〇〇噸
靜洋丸	同 一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

松島遠足の記

村上よね

た會の日々はお天氣つゞきで御座いました日と定められて居た二十七日も上天氣で御た。大よろこびで一同も新渡戸先生の御講員もそこ〳〵に停車場へ參集し十二時五十じ出發いたしました。新渡戸先生諸先生をし知るも知らぬもない親しい友がきは鹽竈まで時のうつるのも知らずに語りましたの道を傘をたよりに船着場までまゐりまし戸先生は皆の手荷物を御手づからお持ち下た、私達もあつさも忘れて只感謝にみたさ大きな船も都合惡しく和船三隻に分乘いた。お小さい方々を先きにお送りして大き最後の船にのりました。東京と横濱の青年

村上よね

ス、女子英學塾皆ひろげた傘の一つ屋根の下にたのしいまどゐをつくりました。船頭が櫓をおして船は音もなくすべり出しました。鹽竈の岸の家々も船の影も次第に後に消えて私達も美はしい綠の岬と大小の島々とを送りむかへしつゝ廣々とした波あだやかな海の上を走りました。銀とかゞやく帆にミス、ベーカーは寫眞機を取りあげられ遠く近くはねる魚に一同も子供らしく騷ぎました。河井先生の仙臺辯たくみに島々を御案内下さいますのに、又一同大笑ひいたしました。五大堂のほとりで船をすてました。「お冷水召し上るなこれを新渡戸先生からその代りに下さいましたのですから」お母樣の樣な先生方の御聲をきゝつゝ各々果物を抱いて五時半迄一時間ば

見知らなかつた島々も裸島、二子島と名
はなつかしく名残惜しく後にみやりました
の中腹から沸くと見た夕霧は一體に凡てを
しまひました。西の方に夕陽もえ東の方か
うす青くくれて波上の物かげが翡翠色に溶
夕は美しう御座いました。星の光る夜の空
を通して私達の心も深い恵を受けました。ことに凡
てについて親の様にお世話下さいました先生方のお
親切、神によりて結ばれし友がきのむつび、よしあ
の美しい松島を忘れる日があつても私達も心から平
和のみちたこの半日のよろこばしさを決して忘れる
ことはないで御座いませう。

たのしかりし一日

渡壁喜代子

氣持のよいお天氣だつた。朝の聖書の組
にすむと、各自お辨當を戴いて女學院の皆
内でいさみ山路にとつた。青々とした草
く聲は塵の間に住み馴れた私にはこの上も
なく嬉しく思はれた。太陽はチリチリ照りつけて風
はちつともない。大分弱られて、「もうよさう」など
とはや萎れてそられる方もあつた。兎に角登る時間
よりも休んで居る間の方が遥にながい。加藤先生は

氣な顔をして追ひついていらして、「そんな
が明けても行かれませんよ」と云はれた。
く事をならつて痛い足を引ずり／＼先生の
いて登つた。胸突き八町より

生のお話し「此頃特に學生の間で信仰をかくされる
傾のあるのを自分は非常に遺憾に思つてゐる」とい
ふ主意を反對の三ッの立派な例（それをみんな神

く事をならつて痛い足を引ずり〳〵先生のいて登つた。胸突き八町よりひどいと思はを越へて稍々平坦な所に來た。神戸の市中の箱をならべた樣で港が奇麗に畵の樣だ。元氣をもり返し、又そろ〳〵歩き出した。りは樹蔭の平坦な道が多くて少しは樂になつしくお友達になつた青山のAさんといろいしてやつと空元氣をつないで着いたのがもすぎだつた。これでもまだ早い部だつたのた。着いた所を再度山の鹽ヶ原である青々る山々をうつした靜かな湖水をまへに控へ足を伸したとき今までの暑さ苦しさはすつさつてほんとにパラダイスにでも來た樣な氣がした。二時間の休みを得て淸水の流れな樹蔭でお辨當をいたゞいた。二時からお

ふ主意を反對の三ッの立派な例（それをみんな神の御榮のため己が信仰を大に發揮せられた人々のお話をもつて訴へられる。大阪で此頃「人事相談」といふ章をつけた巡査を見る。毎日々々いかに多くの困つた人、殊に田舍よりはじめてあてもなく當地に來た者が彼等によつて導びかれ又救はれる事かは私共の想像の及ばない位であるこの働きのおこりについて美談がある。林より子女史といへば大阪の矯風會事業にあづかつて大層力のある人である。餘り老年になられたので息子さんになられる方が「もう歸つて隱居でもなされてはどうか」といはれた所が女史はなか〳〵聞かれない。神のために何か自分にでも する事がないかと考へて居られた末、ある一ッの事に思ひつかれた。それは毎日大阪驛へ出で田舍よりあてもなく集つて來る人々を親切に世話する事であ

話があつたが略する事にする。

司會者の方の祈の意義について有益なお話が祈は大抵三ッの部分からなつてゐる讃美と、祈願である。我等は毎日どんな祈をしてゐるふ事を考て見るのに面白い話がある。某氏が一人のお子さんをつれて一日大きな店へ買物れだ「何か一番欲しいと思ふものを云ひなさしあげやう」といはれた各すきな玩具をねだ氏は二十八錢とかで二人の一番の要求を滿たりられたさうである。私達の神に對するねだれなつまらないものではないでせうか。

先生のお話し、熱心なる一女子青年會員で片

は當り障りのない様な返答をして於てもらひたい」彼女は最後に「信仰の自由はあくまで認めて貰ひたい、でなくばいつでもお暇を貰ひます」ときつぱり答へられた。

お話しの後祈會があり各の心は此美しい自然の中に燃えたつた。弱い夕日を斜にあびて下り坂を友と今日のお惠を語りつゝ歸路についたのは五時にも間近き頃であつた。

神戸修養會日誌

平岩末子

七月十六日（火曜）　後に摩耶の山を負ひたる海に臨めるこゝ東洋のネープルスの東の宮驛に幾百とも知れぬ旅客を吐き出す汽車は未明より欣々たる青年會員を東より西より持ちて運び來りぬ。神戸女學院寄宿舎の入口に歡迎門を打ちたてゝ旅裝の珍客待つ同院青年始め會員有志諸姉はいそ〳〵とそれ〳〵規案內し且つは重き行李鞄等迄運ばれぬ。斯一週間の各自のホームを得て旅塵を拭ひ去りめつゝ夕涼を待つ間廊下に室々に或は庭園聞き馴れざる方言を耳にしてバベルン塔のこそと世界は愚か日本內地にても言葉の表る事大なるを特に思ふ。

平岩末子

□開會禮拜（午後七時開會）

開會の讃美歌第百番の百有餘の會衆により合唱せらるゝや壯麗なる女學院講堂には森嚴の氣滿つ。內外人の指導者が座を占めたる十脚餘の椅子を並ぶるもなほ餘地ある廣き講堂の中心に立ち給ふ緊張したる河井先生の御顔に青白き瓦斯の光は流れて將に開始されんとする修養會につける御希望と抱負を明るく照らす。鹽見縫子女史の聖書朗讀に續きミスマシユーの御祈禱ありて後神戸女學院長ミスソールの溫情溢るゝ歡迎の辭を忝うす。同院教授山田琴子女史通譯の勞を取らる。次に二部合唱、高音藤田德子女史低音ミスクロフォード、七月號女子青年會紙上に[illegible]最後に

斯くて人に訓へんとする先生の講話は主の帝に向ひて叫ばるゝ讚美と感謝と祈願に移に頭を垂るゝ我等敬虔の思ひ禁ずる能はず講師並びに諸學校教師方の紹介、今日こゝ指導者たる可かりし志立夫人の御臨席かなを遺憾とす。願はくば、一日も早く御全快を。幹事加藤高子女史の事務的注意及び報中の會員坂本花代姉、九州のミスプレスト修養會行の一團等よりの祝電朗讀、二百五美歌を合唱して閉會す。散會に當り美聲の二人の女史は再びピアノの傍らに莞爾として、或は高く或は低き其微妙なるメロデー等を天なる憩の國に導く子守歌に似たり。

夕陽會　（十六時半―七時）

司會者　塩見先生

の如き雲の合間より青く深く底知れぬ水の

らんが爲講堂に參集する事とす。禮拜後直ちに勇ましきマーチにつれて各自志す聖書の組に分る。馬可傳今泉眞幸先生、羅馬書西野貞子先生、少女の組中路ちか子先生、舊約書梗概は城戸順子先生不慮の御服喪の爲御來神なく山田琴子先生代りて講師たらる

九時半より十時まで支部役員會を講堂に於て開く。

講演會　（十時―十一時半）

「福音主義の眞義」なる演題の下に大阪兩國橋教會牧師釘宮辰生先生の御講演あり。過渡期に生れ且自らも智識上宗教上の過渡期に際し而も理想は健實なるクリスチャンたらんと渴望する會衆の大部分なる我等はこの修養の御堂に會し此御講演を聞く。蓋し大なる恩寵と云ふ可きなり。聽講者百三十八人。

若し我等男性たらんか共鳴の拍手に手は靜かに膝の上にあらざりしを。希はくば我等女性は理想の實現者たらん。會終はりて組會こ分る。各組會に

の如き雲の合間より青く深く底知れぬ水の大空の見ゆる所淺碧の柔き芝生を褥とし十一番を靜かに歌ふ。「我等の周圍は助け可ち〳〵てあり」との主意の下なる司會者のきて數人祈禱を凝らす。頭を上げし時眼下沿岸には燈火點々として星の如く煌めき初天彷彿、星か燈火か、此言ひ難き光景に包我等、身にしみ渡れる此夕のえならぬ景色忘れん」とは心よりの讃美歌なりき。

講　演　會（七時―八時半）

司會者　林あき子先生

演奏中一同靜肅に着席す。演題「現今の歐日本婦人」講演者河井先生、聽衆に慚愧の、發奮の表情あり、「世界は固定し居らざる步を世界と共にせざれば日本婦人獨り後に

上にあらざりしを。希はくば我等女性は理想の實現者たらん。會終はりて組會に分る。各組會には指導者を定め就床、前九時より九時半まで或は戶外に、或は室内に集り終日受けし恩惠を明かに味ひ且祈るを目的とす。

□第三日　十八日（木曜）

早朝霧雨の爲五時半より六時までの早天祈禱會は林先生司會の下に講堂にて禮拜に續き聖書の講義の後九時半より支部報告會に移る。早瀨とみ子姉司會の下に十六校の代表者の齎せる內容充實したる三分間報告ありたり。

講　演　會（十時―十一時半）

司會者　佐々木夫人

有志の聖歌隊の合唱朗かに響き了りて直ちに關西の大宗教家宮川先生の靈的趣味てふ題下に御雄辯

科學館寄宿舍其他種々の建築物何れも洋館米の大學の風致を思はする此校に唯一の瀟本館あり家齊館と云ふ。其樓上作法室とか間にて開催す。一ツの教會或は一ツの學行ふ親睦會とは其趣を異にして劈頭よりの隠し藝を以て始まる。それ〲其代表せ特色を發揮したる對話等の妙味より滿座抱中に語學上の智識を將又深遠なる哲理を學五錢に値する輕き御煎餅の一袋に茶菓の饗盃し各自胸にさげたるハート形のカードにる校名と姓名とをよすがに相互の親睦を一する時しも寫眞師は我等にレンズをむく。ルはけたゝましく鳴りて樂しき會來を第二

等の胸裡に該方面に就きその興味と同情とを惹起せしめて餘りありき。聽衆約百二十有餘人。

□第四日　十九日（金曜）

六時の起床より九時の就床までは順序を前日に同うす。九時半より十時まで松井千代子姉司會の許に支部報告會を開く。東京青年會を加藤幹事、横濱青年會を河井先生、大阪青年會を井口姉紹介旁々報告せらる。これにて支部報告終了す。河井先生の御發議に曰く、相互の參考に供し進んでは全國の青年會の發達を計らんが爲來年よりは口頭の報告のみに止らずして支部の成績を具體的に披露する展覽會を試む可しと我等來夏は其展覽會の誕生を切望す。

演　會（十時—十一時半）

司會者　中路先生

たる婦人の價値ありやなしや知らず。只

ち子女史は讚美歌七番を選びて祈りし御默想の一端を語らる。きゝ入りつゝ深緑の連山を眺むれば日影は消えて寐座に歸へらんとする烏三羽四羽二羽我等

めたる婦人の價値ありやなしや知らず。只
に覺め常により高くより深き人格に進まん
あり。されば境遇に從つて異れる煩悶あり
ん事を求む。「覺めたる婦人の煩悶と覺悟」
に名出保太郎先生の一場の御講演ありし時
にしたる聽衆百四十餘人の心底に得たる覺
萬別なりしならん。

時を合圖とし有志は湊川神社神戸港又神戸
年會館の三方に分るゝ見物の方向目ざして
。疲れし足曳きづりて歸へれば氣の利きた
學院諸姉は覆盆子汁を小高き山に盃持ちて
ゝむ。其純益金は同院青年會事業の爲なり
兩得の智惠の露味つていよく甘し。

惱陽會（六時半—七時）

司會者　弘中先生

ナ及びルイズの譯者を以て聞えたる弘中の

を語らるゝ入りつゝ深緑の連山を眺むれば日影
は消えて寐座に歸へらんとする烏三羽四羽二羽我等
の頭上を飛び行く。宗教の力を除きて文藝の力程偉
大なるものはなし精神的活動を盛ならしめすさみ行
く人生に慰安を與ふ。然り、されどこれを我等に紹
介せんとする人に誠實と信仰を見るに難き現代に著
述者と夕陽の祈りの蓆を共にす。樂しからずや。

講演會（七時—八時半）

加藤先生司會

佐伯病院長佐伯理一郎先生は國手を以て天職と
遊ばさるゝ御風姿賴もしく諄々として我等に「婦人
衞生論」を說かる。女學校の生理の敎室にて隱され
し諸件しかも大切なる衞生思想を得たる實に感謝に
堪えず。

□第五日　廿日（土曜）遠足

天氣快晴にして將て遠足日和より例の如

連山に圍ませたる湖邊に日の光りに向き波めつゝ晝食を濟ましたる後樹陰に憩ふあり浸して喜ぶ年若き人々あり或は湛ふる湖のに口を漱がんとて溪谷に分け入りし探險家。

後二時湖邊に一同會し各自手にせるパラソンテントとなし西野先生の御説教を傾聽す。波よする水際の一本の松蔭に立ち坐ろに口淳々として盡きざる靈趣ある力に滿てる音の胸に送らる。我等此壯美なる書中の人と妙言に觸る。救主の歩き給ひしガリラヤな詩的なる湖水に無限のインスピレーション。

錄なりき。

第七日七月二十二日(月曜)

を迎ふる元氣を得たり。

□第六日七月二十一日(日曜)

午前中は各自隨意に教會禮拜に出席す。寮に殘る人々の爲に講堂にて西野先生の「安息日を守る理由に就て」との御懇切なる御話あり。午後三時よりは或は綠蔭に或は窓際に組會開かる讃美祈禱の聲ゆかし。夕風涼しき芝生の夕陽會の今夕の司會者は平岩末にして聖書祈禱所感を省き單なる讃美禮拜となす引續き講堂に至り講演會に代ふるに若き心の喜びは歌に歌ひ苦しみは感話に迸しる。涙さへ交りし此集會はいつもとは變りたる色彩を帶び最後に一同合唱せし女子青年會々歌は此夜天に向ひ地に向ひて上ぐ

し希望者一行は須磨の浦に清遊に出かく。殘れる寮の半數許りは四時より校庭に集ひ東洋英和諸姉の幹旋により「馬鹿遊び」と總稱する滑稽にして無邪氣

第七日七月二十二日（月曜）

朝の後九時半より講堂にて協議會を開く。
生の祈りにつきてミスマシューの御話あり
る事左の如し。
ソキスに茶若干斤を贈る事。
立夫人に御見舞狀を出す事。
四修養會に於て胸にさぐるハート形カー
仲寄贈被下し野村夫人に御禮狀を出す事。
並に於ける修養會に祝電を打つ事。

講演會（十時―十一時半）

司會者　藤田先

修行」日野原善輔先生。新らしくして新ら
る先生の御高説は我等の心に的中して得る
さ。

食後暫時の靜肅時間中寮内に音なかりしが

の半數許りは四時より校庭に集ひ東洋英和諸姉の斡
旋により「馬鹿遊び」と總稱する滑稽にして無邪氣
なるゲーム數種に一同我を忘れて笑ひ崩るゝ子供時
代の昔に歸へり空腹を覺えて夕飯を待つ。

夕陽會（六時半―七時）

司會者　藤田先生

音樂の趣味に生き給ふ藤田先生は瞑想的の御眼を
芝生の上に落して、「かくも自由に幸に神を拜する光
榮を得たる我等は今しばしこゝに、我等の爲に流せ
る殉教者の血を偲ばん」と語らるゝ刹那も感に堪へ
ざるが如きに會衆同感して祈りを捧ぐれば燦然たる
星は復活せる聖者の化身ならずや、無數に中天に輝
かんとす。

講演會（七時―八時半）

司會者　荘原先生

「御道の妙味」屢々聞く語なり。されど御身御婦人

ゝ讃美の聲さへ感傷的に響きぬ。

第八日七月二十三日(火曜)

禱會司會者中路先生。有志五十人餘りの者草踏みて講堂入口の石段の前に中路先生指祈りせんとて集る。露に潤ふ螢草は其瑠璃傾けて懷鄕的の氣分を我等に與ふ。明日はする故鄕の爲に愛する父母の爲にいとしきに或は母校の爲祈る聲々は慄へて淸く天つ父の御耳にや達しけん。散ずる者の顏朝日えて神々しくも美はし。

く禮拜及び聖書の組終はりて九時半より新見先生にベルジユームの御話を伺ふ可く講

に仰ぐ。我等此修養會に來り多くの宗教的敎訓を藏したれども如何にせば日常生活にそれ等を當て箝む可きや。是胸中に殘りし只一つの問題なりき。嬉しきかな。我等最後の此御講演「日常生活と基督敎」により質問の總べてを解決せられたるが如き感あり

晝飯より夕飯まで何れの室も行李の荷作り汽車の時間の取きめ等にて忙がしきなり。或人は今日の夜行或人は明日朝早き出立なれば。

懇親會(六時開會)

司會者　加藤先生

思ひ出深き夕陽會の場所たりし芝生の上にて加藤先生司會の下に歌美歌第三十四を合唱して開會す。司會者の聖書朗讀祈禱等の後始めに平岩末全會衆を

神戸女學院に對し謝辭を述ぶ。神戸女學院々長杉みさを姉の答辭ありて三分間感話に可傳の聽講者として靑山女學院の早瀨師は

「みよや十字の旗高し」を歌ひつゝ校庭を一週、二週、我等の胸は萬感迫りて歌も次第に細る。不圖落日の神戸鷲頭の彼方に團々たる一面靑銅の姿見しは

長梓みさを姉の答辭ありて三分間感話に可傳の聽講者として青山女學院の早瀨姉はに就て新たなる見解を得られしと語り、淸の和田姉は舊約書聽講中に觸れし二大人格讃美し朝鮮を郷土とせらるゝ女子學院の金身の信仰を告白せらるゝに悲調あり此度の講義に出席して始めて樂觀的心境に入り語尾の口許に笑浮ぶ。少女の組の原田姉はけなき唇より第一祈りを以て第二智惠を以力を以て、神の國の建設に奉仕せんとの堅云ひ表はさる。後より述べられし福岡女學姉岡山縣立御出身の德田姉等の御感想何れ結晶にして今宵此修養會より散じ去らんとを皷舞してやまず。終りに加藤先生の御所を以て閉會す。

として去り得ざる我等は二人づゝ手に手を

週、我等の胸は萬感迫りて歌も次第に細る。不圖落日の神戸灣頭の彼方に團々たる一面黃銅の盆現れぬ月よ　月よ。その先の感歎詞を發するには餘りに奇觀なり。阿屋に倚りて立たるゝミスマシユー及び加藤先生より燈れる蠟燭一本づゝ戴きて、歌ひつゝ、輪を作り芝生を廻る。微風にゆらぎつ、動くイルミネーションよ、そも何の暗示ぞ

加藤先生の一聲に燈火は一齊に消され、かねて用意のスキスのまだ見ぬ友に贈る可き獻金は靜かに帽子の中に集りぬ。燈り殘れる隨一の大蠟燭の火影にて少女の組唱歌隊の合唱了るや加藤先生の聖書朗讀光りにつきての佳句を選ぶ。

溫き血の通へる手を互に繫ぐ鎖として再び輪を成し「神ともにいまして」の送別の歌をうたひ「神よ此印象深き集りを感謝しまつる」と叫びし最終の一人の祈りは餘韻なつかしく會衆の默禱と結ぶ。時に午後八時五分過ぎ。斯くして祝す可く紀念す可き第

立つまで動搖してゐた私も、寢苦しい一夜を
過して、黎明の地上を匍ふ濃霧の細い霧雨に
は、もう底冷のする仙臺停車場のプラット
に立つて居りました。
にくい字が一寸意味深長に響く尙絅女學校は
を抱き込んだ仙臺市の町はづれに場所を占
ます。 構外に歩を向ける私の面を撫でる風も
に歌ふ鶯の聲も涼しく、まして其處らに遊
子供等の耳なれぬズーズー辯を聞くに於て
に來たなあ」と思はざるを得ません。
午後七時、旅に疲れた人々は勇氣を鼓して
ら一寸離れた本校の講堂へと歩を運ぶ。つ
棟木のヴニスと眞白な壁とが、開け放した

感じを與へます。 其處此處に飾られた白百合の花も
涼しげに見えます。 中央の白壁には「信仰もし行を
兼ねざる時は死るなり」といふ今回の標語が、見る
ものゝ胸を突く樣にあざやかに書かれてあります。
岩澤時子先生の司會で、先生の御挨拶や、當校々長
ミス・ブゼル及び河井先生の演說があつて、各委員
の紹介が終ると一同マーチにつれて疲れた體を各自
の室に運びました。
廿四日。七時四十五分から講堂で朝の禮拜があり
八時から稻垣陽一郎先生の路可傳（敎師及び傳道者
の爲）吉川起行先生の舊約書、岩澤時子先生の約翰
傳、渡邊百合子先生の少女の組の四ッに分れて、各
々定められた敎室に入つてゆく。 窓外の樹木の遙か

らくと流れてゆく廣瀬川の眺涼しく、此
は浮世の塵のとゞかぬ仙境の樣にも思は
九時半から十時半まで支部報告會あり、

に御出席なさるには及びません」と云はれてみると
無理にも出たいのが私の性分です。 ふらつく足下に
氣をつけて午前五時半、霧の薄[illegible]講堂て

は浮世の塵のとゞかぬ仙境の様にも思は
。九時半から十時半まで支部報告會あり、
ら笹尾粂太郎先生の「信仰と實行」といふ
りました。開會第一に今回の標語の學術的
列擧し、而も冷い哲理や神學の上に立つて
如き信仰生活を力說する先生の學者らしい
となく輝いて見えました。午後四時半から
生に座つて、西洋の方々は手に〳〵編物を
ら、ミス・プリンガーの矢坂丸沈沒談をう
した。五時にミス・オルチン指導の下にク
の練習が始まりました。夕食後の落ついた
に集めて、六時半から夕陽會が開かれまし
葉がさら〳〵と鳴る、夜の冷氣が身内に忍
私共の思も夕風に乘つて雲をついて昇つて
思はれました。夜は再び講堂でミス・マク
の流暢な日本語のお話がありました。

無理にも出たいのが私の性分です。ふらつく足下に
氣をつけて午前五時半、霧の薄くたちこめた講堂に
集る。朝は聖なるもの、早朝の氣は緊張してゐるも
のだと思ひました。十時半から再び笹尾先生を迎へ
て、「我を感化せし人々」に就て先生獨特の經驗話を
うかゞふ。而も先生を感化したものは學者の人格に
してその學問に非ず、ゲーテをもシルレルをも極め
た婦人の學識に非ずしてこの熱き祈でありました。
スキスへの道すがら、友にはぐれた先生を宿してく
れた貧しい家の齒ぬけの婆さんも、よく先生に一生
忘れる事のできぬ感銘を與へたといふ事實そのもの
が、宗教生活の秘義を語る樣でうれしうございまし
た。五時からストーリー、アワーといふものあり、
例の芝生で河井先生の田舍者の話に笑はされ、讀本
の四まではよく讀めますといふミス・ガンタの日本
文學談にお腹の皮をよつて立ち上ると、お隣とほし

部の幹事ミセス・エディーの興味あるお話した。

◦十時半から菊地武治氏の女工問題に關す り、夜は當校敎授吉川起行先生の「よき行する說敎がありました。ソーシャル、サーみをもつてクリスチャン、ウオクなりと考をもつて慈善の眞意をくみ得るが如くに思通弊を指摘して、結果の如何を問はず、只のまゝにまかせる所に眞の信と行との一致る所、痛快な程でした。

◦新渡戸博士の「信仰と働」を九時半からでに繰り上げ、早お晝を食べて松島に行くは一行を送つて空しく退かうとすると、御

だ樣にない。へと／＼になつて、それでも空元氣な出しながら「先生、もう歩くのがおいやでせう」とミス・オルチンに聞けば「あなたは富士に登つた事がありますか。此の靴は二度富士山頂の土を踏んだんですよ」と、大きな眼をきよろつとまはしながらすましていらつしやる。煙つた樣な空にかすかな淡紅色の流れる頃、私達は高い／＼城山の絶壁の上で眼下に擴げられた大きな繪巻物にみとれて居りました。「あの赤いのが學校よ、學院も見えるでせう」と宮城女學校の方が仰しやる。綠にかこまれた仙臺の町、見下す目のすぐ下には鏡の樣な廣瀨川が夕暮の空を映じてゐます。水邊の白點はつりする人の姿らしうございました。「つりをする人、見る人」とい

新渡戸先生のお話の一節がふと浮んできてに微笑まれるのでした。冷い風が汗ばんだ

の出席者の集となし、弘前女學校の伊出さんの司會で、新設せられた東京女子大學青年會の報告あり

微笑まれるのでした。冷い風が汗ばんだる見晴しのいゝ椽臺に腰かけて、話しなながら樂しい夕御飯をいたゞきました。「貴リットは？」私達は席順に各々の好きな選んで、もう全く日かげの落ちるまで、心じました。餘光淡く西の空をぼかす時、は急坂を下つてゆく私の唇には、いつかテ「砂洲をすぎて」が顫へて居ました。

昨日の疲れを慮つてか、今日は起床のものも遅い。聖書の組もお休みなので何と日の朝らしい靜かな氣持がします。九時半禮拜、それがすむと半白の毛利牧師はどつ軀を講壇に運んで「信仰の歩み」といふアリストテレスの歩行教育から說き起ス自身その實行者であつた事を述べ、行と行ふといふ字の表はれた所を引照して

會で、新設せられた東京女子大學青年會の報告あり奈良高師出身の遺愛女學校敎諭藤田さんの深酷な回心時の告白あり、次に盛岡の小學校を敎へていらつしやる小野寺さんは、あらゆる人事を盡しても救ひ得なかつた病夫の死後、三人の忘れがたみを抱いて樣々の辛苦に惱まされた時、ある方のお導きにより神の御懷に安んずるの喜を與へられたといふ、曲折に富んだ御生涯の經驗をお話し下さいました。しんとした夜の禮拜堂に語るものも聞くものも淚をぬぐはずには居られませんでした。

廿九日。今日は稻垣先生の組の方々の爲に東北學院の梶原先生がお話し下さる。十時からは稻垣先生の「人生の遍歷と基督敎信仰」といふお話がありました。ふるへを帶びた力强いお聲が、流れる樣に後から〳〵意味深い神の言葉を私共の胸につたへて、靑春から死に至るまでの人生の遍歷と、その各時代

ある實例をあげて説明せられ、我等も又太
むさぼり居るべきにあらず、進んで何らか
しるしを表はさゞるべからずと激勵せられ
名殘惜しい最後の夜の消燈の鐘の鳴つて後
心をそゝる樣に何處からともなくふるへく
なコーラスの音に誘はれて、我知らず廊下
て行つてみれば、聲の主は暗い彼方の木影
しく、甘い愛の囁が靜かなメロデーと共に
私共を恍惚たらしめるのでした。
あゝ、とう〳〵一週間もすぎました。最後
ルクラスは何となく緊張してゐました。一
義を結ぶ吉川先生のお祈りの聲が少しふる
ない涙さへ私の眼には滲んできました。午
歌を歌ひ響かせました。
時といふに、校舍の入口から講堂の後方に

的な激語の切れめに、雷のとゞろきさへ聞えて、
の怒わが胸を打つかと思はれるのでした。「そゝ
たまへ、わがうへにも」と歌ひながら目をあげま
と、窓わくの中に浮んだ空はいつしか眞青に晴れ
つて、かすかにゆらぐ綠の木の葉はまばゆいばか
光つて居りました。四時半から庭で新睦會があり
した。ガンピ紙を口にあてた異樣な樂隊の進行曲に
つれて輕裝した一隊の少女が木陰から踊り出て、
つとりした草の上を妖精の樣に音もなく飛び廻るの
でした。今度は會衆全體が二列になつて「らゝ
のマーチに足拍子をとり〳〵まはるくなり、一列
中央に入つて美しい人の花文字、Y・W・C・A・
を眞青な芝生に畫いて、そのまゝ一同天にもとゞ
た僅かな奉仕のしるしを、お茶一杯も飲めぬジ
パの學生の爲に用ひる由の喜ばしい御報告をな

時といふに、校舍の入口から講堂の後方に
ゐる廊下に長い〳〵二列をつくりました。
廊下に淡い蠟燭の光がひとつ〳〵ふえてゆ
私共はクワイヤーを先に立て、手に〳〵燃
て、勇ましい「みよやじふじの……」を歌
しづ〳〵と講堂に入つてゆく。蔦の葉に美
れた正面の壇上には見なれた先生方が之も
に聖像の様にぢいつと立つていらしやる。
胸がをどる。一同着席すると河井先生が進
たてつゞけに聖書の此處彼處をお讀みにな
と電氣がつく。燭光は吹き消される。茲で
いろ〳〵の方の送別の辭やおすゝめをうか
た。最後に河井先生は壯重な調子でうら若
の方々に決心をおうながしになりました。
ろに起立した廿人を前に懇切に、熱心に先
るゝ間、しのびやかな欷歔の聲さへ此處彼

への學生の爲に用ひる由の喜ばしい御報告をなさい
ました。

みいつあれ、みさかえあれかし……。

聲高らかに主を讃めたゝえつゝ、私共は燈火を手に〳〵屋外に急ぎました。もう外は眞暗でした。裏手の廣場に炎々と燃え上つてゐる焚火をかこんで、淡い蠟燭の光と、ぼんやり浮んだ顔との大きな輪が作られました。小さい燭光が遙なる星のひとつ〳〵と目ばたきを交し、立ち昇る焚火の煙が丁字形にぼーつと流れてゐる天の川に合する様に見えました。

「あめにすめる
　ひぢりらのひとみ……」

かすかに起つたクワイヤのふるへるアルトが涙をそゝる。數名の祈禱の後第十三回修養會の最後の會は閉されました。淡い燈火が入り亂れて、降る様な星空の下に、「さようなら、さようなら」の聲が暫

は知つて居る人も、知らない人もありませう
前、折を得て、始めて之を見舞ひました。
佛國宣教師が、御殿場附近を彷徨ふ癩患者
るのに深く同情を寄せ、其中の殊に哀れな
死に會ひて意を決し、神山に癩患者の宿を
が始まりで、明治二十二年以來、大部分佛
の寄附金に依つて、支持して來ましたが、
の人數を增し、成績も良いので、今日では
助と篤志の寄附とに依つて維持して居ます
だ、信仰もなく、定まつた考もない、若
人が癩病と云ふと非常に嫌ふばかりでなく
時には憎む樣に見える、譯がわからないで
に種々と問ひ、餘り間詰めた故か、解らな

と云ひました。それから私は、先きに、
廷て、鍋、釜やら食物を揃へて置いて、後

す。其時は默つてたけれど、心中の疑問は解けませ
んから、新聞雜誌などに癩病に就ての記事があると
注意して讀み、人の談話も氣をつけて聞いて居まし
たが、困難な病氣であるのみで、之に罹つた者を卑
しみ、憎む理由を見出す事は出來ませんでした。或
る年、私は父に伴はれて讃岐の金毘羅から宮島へ行
きました。私共の乘つて居る船が、數々の島の間を
通る時、私は父にこゝらの島を一ッきめて、日本中
の癩病人を、皆容れたら如何でせう。と云ひました
そうすると、父が、お前其世話をしてやるか。と云
ひましたから、私はいやです。と云ひました。父は
お前がいやなら、誰でもいやだ、けれども病人だか
ら、島へ入れたばかりで、世話をする者がなくては

者一體の性質は不良で、取扱ひがむづかしいと云ひ
ました。監督を嚴にすれば反抗する、身體のきく者

建て、鍋、釜やら食物を揃へて置いて、後
送り込み、時々食物を船で運んで、島の岸
出して逃げて來る、と云ふ樣な事を云つた
て居ます。其後私の境遇と、思想も變りま
ど、癩病の事は私の心を離れません。熊本
ル孃の事業に就て聞いてからは一層深く考
に居る癩病の乞食を見る毎に收容所がなけ
ぬと思ひました。けれども、數十、數百の
所に集めたと假定して、其の世話を如何す
ふと、私には、世話どころか、見舞に行く
ない、と思ふので、それきり考が出なくな
ふのでした。長い間此通りで居ましたが、
試で自分にも癩病人の世話は出來る、リデル
院へ行つて試して見たい、と思ひました。丁
或る癩病院を見舞ふ樣に誘はれたので、喜
ました。それが私が始めて多數の癩患者を

ました。監督を嚴にすれば反抗する、身體のきく者は逃げ出した。數日後警察を經て戾つて來たものも數人ある。寛にすれば放縱、我儘になつて、始末に困る。之が學校なら卒業と云ふ目的に依つて、一同に忍耐させる事が出來る。病院でも全快して家に歸る日があれば、それを樂しみに、自制する事があるけれども、此所に居る者には、先の目的も、樂しみもないのだから、訓戒のしやうがない、强いて樂しみと云へば、未來の樂しみであるから信仰はさせるけれど、宗教を定める事は出來ない。種々な人の集りであるから佛、神、基と銘々の自由に任せて、慰安を求めさせて居る。畑を作る地所は廣いけれど、手足の不自由な者ばかりであるから、健康な人以上に食慾のある　患者の食料に足る程の者は、到底出來ない、婦人患者も手のきかぬ者が多いから、洗濯裁縫も他からしてやらねば、間に合はない、と云つ

居る所を庭園を中央にして、小さい家が建並
花壇には花が美しく咲き、泉水には、金魚が
病院よりは、別荘の樣に見えましたが、其所
人々の容姿は、筆にも言葉にも表はせぬ。悲
ので、男子か女子か、年よりか、若いのか、
る事の出來ぬ程でありました。其時の在院患
齢は、七才から六十才と云ふ事でありました
才の小兒が此恐ろしい、不治の病氣に罹り社
引離されて、只死を待つ位なら生れない方が
あつたらうと思つて居ると、後頭に少し髪が
がりで、顔の輪廓も目、鼻、耳、口、一ツも、自
を存して居ない、元より男子か婦人かわから
親の者が、愛らしい小兒を負ふて居るのを見
も基督の愛に浴すれば、斯うなるものかと
した、神山の今の院長は老年のカソリック
。私が知人の紹介で持つて行つた、

する氣にはならぬ筈と思つて居た所に、院内で生れ
た子を見るのみか、母の變つた容貌と子の清い愛ら
しい顔とを對照しては、神を知らぬ人間は恐ろしい
罪を造るものと、深く感じました。其夕、家に歸つ
ても、食事をする氣になりませぬ。子供達が側に來
て、癩病の人をきたなかつたでしよ、と云つた時、き
れいであつたとも云へませんから、本當に可愛そう
であつた。あの中には、善い人も、利口な人も居る
だらうと云ひましたが、私は、夜獨り子供達が不幸
な人を嫌はないで、同情を持つ者となる樣にと祈り
ました。以後一度基督信者の日本人が經營して居る
癩病院を尋ね、基督教の患者に及ぼす感化の大なる
事を思ひ、先日、神山病院に行つて、社會が持て餘
かも知れませぬ。さうなれば名譽の死と思ひます。
新しく來る患者の性質は良くありませぬ。けれども
私が

した、神山の今の院長は老年のカソリック
。私が知人の紹介を持つて行きましたら
院に迎へ、次の様な事を話しました（日本
なたと同じ人間ですから、人情から云へば
を見る事はいやです、始めて見た日に私は
來ませんでした。併し神から選ばれて、多
出來ない役を命じられたと思へば嬉しくも
あり、何卒神の榮を表す様に役目を勤めた
ます。私が自分の身を大切にして、病氣に
い様に用心すると、患者は直にそれを悟つ
親しみませぬ、さうすると私は患者を神に
出來なくなります。癩患者の性質の惡いの
見捨てられ、行く先々で、人に嫌はれるの
原因ですから、私は患者の中に入つて無病
る通りにします。前の院長も其通りにして

新しく來る患者の性質は良くありませぬ。けれども
私が親で、患者は男子も、女子も、皆兄弟と云ふ
事が解ると、性質の一變して此所を我家と思ひ、親
類を怨む心もいつか消えてしまひます。信者になれ
ば猶更よくなり、新入患者の世話をして私の用を助
けてくれます。患者の數は今は六十八人で、近頃來
た六人の外は、皆信者です。癩病人の心はきたない
ものと云ひますが、此所のは惡い情など起す者はあ
りませぬ。創立以來、此病院で異性間の問題の起つ
た事はありませぬ。皆善い人で私は感心して居ます
一通り話を聞いて後、案内に從つて行くと、御堂
の兩側に男子室と、女子室とが置かれて、其間に何
の仕切りもなく、自由に往來出來る樣になつて居ま
した。女子室の方では、二人床に就き、三人臺所で
働いて居る他は、皆裁縫をして居ました。男子は働
きに出て居るので室には一人も居ませんでした。男

油、砂糖、油位に近頃漸くなりました。手足を欠く者ばかりですから、一人前の仕事は二一人掛る、けれども、畑を作る、炭を焼く、する、勞動の出來ない者は小屋の中で疊を作繩を綯つたりして居ました。其人々は病氣のんだ者で目の見えぬものも居ましたが、それを綯つて居て院長が話しかければにこ〳〵笑ました。先日一度、運動會を催し、二十六人持つて山(なるべく人の行かぬ)へ行きました長が御殿場から菓子を買つて來て、分けてや大層喜んだそうです。此所の患者も娯樂と音樂やら芝居をします。其音樂は非常なもの長の耳も頭も痛むそうですが、それでも患者

白人の紳士 殊に佛人ですから 高尚な音樂を聞分け味ふ耳も智識もあり、文明の生活法を知り抜いて居ながら、よくも祖國を遠く離れ、風土習慣の異る日本に來て、人の厭ふ病人を多く集め、斯うまで行屆いて痛はる事が出來たものだと思ふと、同時に自分は何と云ふ利己心の強い我儘者であらふと思ひました。

英國と云ひ、佛國と云ひ、癩病人の世話をする人は、熊本と神山の院長のみではありませぬ。若し兩人が、其役目を勤める事が出來なくなれば、代りの人は幾人でもあるのですから、英國中に癩患者が一人も居ないと云ふのは、偶然ではありませぬ。私は今まで、癩患者を隔離する事は、當人に取つては、忍び難い事である、けれども、社會の多數の人の爲

牲になつて貰はねばならぬと思つて居まし
實の同情を以て、教へ導く人を得るならば

事であります。されば福音書中の、あの短い記事も
人に與へた感化は偉大なもので、エスの示し給ふた

實の同情を以て、救へ導く人を得るならば集り、別世界を造つて、程よく働き、程よ氣安く一生を送る方が、血統を秘して社會、人に悟られる事を絶えず憂ひ、悟られたきされ、僞りの結婚をして子孫を増し、苦より、遙に幸福で、智惠のある仕方と思ひ音書中にあるエスが癩病を癒されたと云字の通りに取れば、不合理にも聞へるけれスト信者の中から癩患者の眞の同情者が出捨てられ、天に怨み、人を怨んだ者に喜とさせ、其人々が自然の美を樂しみ、神を讃相親しみ、人の歩むべき道を歩んで一生をふ事は、精神的復活で誠に奇績と云ふべき

人に與へた感化は偉大なもので、エスの示し給ふた教訓に依つて癒され、新しき生命を得た者は世界を通じて數へ盡せぬ程でありませう。

癩患者の爲めに、ホームを造り、次の代に病毒を傳へぬ樣にする事は、私の年來の希望であります。近年患者を収容する所の追々出來るのは喜ぶべき事でありますけれども、未だ却々充分ではありませんで、雨露を凌ぐ家もなく、身には襤褸を着て、食を乞ひ、あてもなく歩き廻る癩患者が日本中に大勢あります。之等の不幸な同胞を救ひ、救へ導く者は、基督信者を置いて他にありますまい。即ちそれは日本の信者全體の上に懸る使命であると私は信じます

新しき文明といふも五十年銀座のまちは老いにけらしな　（金子薫園）

今ははや新文明の建設者みな世を去りて銀座も老いたり　（同　上）

は東洋に派遣して、諸國の女子青年會及び教育等を視察せしむる慣例あり、この目的の爲に夫人は御令妹を伴ひ、昨年九月支那に行き月上旬日本へ渡來されたり。既に梅雨期に入校は試驗間際にて、巡廻視察の好時期にはあしも、時日の許す限り、日本を紹介する必要感じ、六月十二日夜行にて東京を出發せり。早朝仙臺に着し、尙絅女學校に馳す、構内よ業は確かに仙臺第一と稱すべし、校長初め職諸姉の厚き歡待を受け、エディー夫人は全校一場の講話をなし、深き感動を與へ、私は内と高野先生と修養會相談に時を過ごせり。夕連ね有名なる乳母町に政岡の墓を訪ひ、仙臺

十四日。宮城女學校に行く、同校は昨年八月起工し、今年五月に落成式を行へる高等科の新校舍は一段の美をそへたり、其内には新式の割烹室、作法室化學室、標本室等より、二階は裁縫室及び高等科の教室、三階には音樂の練習室と共に、小音樂會を催すに適したる一室あり、窓よりの眺望四季其趣を呈すべく、斯る美はしき場所にて學び得る生徒の幸福を喜ぶ、四階に上れば三方に小さき室數個ありてオルガン練習室に備へられたり、一方は廣き物置にして、濕氣多き國には免れ難き黴をも防ぎ得るなりと校長の說明されしに深く感服すエディー夫人は割烹室にての料理に氣をとられ、容易に立ち出でんとせず、强いて夫人をシエネーダー夫人の許に連れ行

のもてなしに預る、シエ夫人は兩三年米國、漸く仙臺に歸られしを以て同地の婦人會

て歡迎され、門内に入れば北海の初夏は雨ゆゑ一層の美を呈し、繁茂せる樹木の下に牧草の青々したる

漸く仙臺に歸られしを以て同地の婦人會活氣つきたりと。只にそれのみならず目下北學院の爲仙臺市の有力者を說き、東北學の運動に晝夜奔走中にて而かも喜と勇氣と滿ちたる經驗談には、私等一行深く奬勵さ

時東北學院六百人の男生に向ひ、エ夫人は講話をなして後、直ちに松島に向ふ、鹽釜して松島を一周し、夕食を松島館にとり、にして野路の一里半を蛙のオーケストラに松島驛に向ひ、夜行にて青森に行く。

時半の船にて、津輕海峽を渡り正午函館に牛山は深く霧に閉され、僅に港内の船舶と築物の目にとまるあるのみ。船の棧橋に著に遺愛女學校に行かんとせしも、雨中の深の一人も行く者なく、漸く電車に乘り、遺

の美を呈し、繁茂せる樹木の下に牧草の青々したる八重櫻のうば咲、山吹、藤の雨になめやる風情、デーゼーや西洋の野花の亂咲きたるなど自然の和洋折衷を見る心地して、旅の疲れを癒すに餘りあり。排水完全せる通路を通りて、外國先生方の白館に導かれ、私等に與へられし寢室に至れば、遙かに海の見え、近くの農場には牛馬の憩ひ居るさま、水車の風に舞ふなど、北海道迄來りし甲斐ありしとお互に喜び合へり。二時半より講堂にて、エ夫人の講話あり、續いて青年會の事業を報告し、美はしき會を終へたり。この夜先生方により歡迎會開かれ、主客相和し恰も學生時代に立かへりし如く、各自の御國訛りで、抱腹絕倒時のうつるを忘れ居たり。此處には以前甲府英和女學校にて會ひたりし成澤知惠子先生青山女學院にて親かりし鳴海くに子姉、書面のみにて知り居りし猿川ひで子氏など敎鞭を執られ居るを

が教育ある父母によりて、各自適當なる責
られ之を全うするの練習を見て、彼等の將
まるを知り得たり。此日晴天にして北海道の
候を呈し、雨後緑いよ〳〵深く、雲雀わたり
かふなど到底塵埃多い都會にては想ひ及ば
閑雅を覺ゆ。
二時より再び集會開かれ、其後二三の職員等
の坐談に時をうつし、互に受けし所多きを
翌日女子青年會役員會を開き、四五年生及び
先生方出席ありて、親く會の方針を語り、發
し、共同を誓ひ、感謝のうちに別れを告げ
後は函館市内にある遺愛幼稚園に於ける婦
む。エ夫人は家庭教育につき講話あり、其

行き、エ夫人と共に講話す、同校には六百五十名の
生徒ありて、半は北海道諸所より來りし者なりとぞ
校長は寄宿舍の不足を告げ、且又札幌は北海道教育
の中心なれば、教育機關の具備すべき必要を述べ、
私等の反省を促す、午後二時より美以教會にて婦人
會を開かる、十年以上も相見ざる舊知に會ひたれど
昔を語る暇もなく挨拶さへも充分になし得で又別れ
しも名殘多かりき。同夜は在留外國人のみ十數名北
星女學校に集り、エ夫人より世界的運動をきく、其
中に大學教授一名ありて、國際問題に及びたるを以
て、女子青年會の渡米の人に注目せる事を述べ、一
同の協力と同情とを乞ひたり、談話興に入りて全く
時刻を忘れ、十一時をきく。翌日北星女學校にて講

廳立高等女學校に赴く、同校にては以前横
姉二年奉職されし事あり、同姉の感化今も

り、四時間を津輕海峽に費し正午青森に着す。時間
の都合に依りエ夫人は盛岡に向ひ、弘前行には河井

姉二年奉職されし事あり、同姉の感化今も
は氏の信仰的奮闘の結果なり。目下英學塾
本つね氏教授されつゝあり、僅に挨拶を爲
み、親しく語る可き時間は皆無にして別れ
き限りなりき。
時より北辰教會にて、エ夫人は「神の器」
味深き奬勵の後に、女子青年會につき充分
を與へられたり。抑も札幌は我第二の故鄕
可き地にして、北星女學校は我母校たれば
出多き土地なり、舊師舊友の消息を詳か
もなく、只二三人の先生方が昔に變らざる
て、北海の一隅に全身全力を注ぎ、世間よ
勞をも認められず、其名さへ知られざる如
眞の献身を以て其職に奉仕さるゝ敬服の他
き將來に必ず急がざるの訪問をなすべしと
ど一同皆あてにならぬと笑ひつゝ、心よく
と見送られつゝ。

の都合に依りエ夫人は盛岡に向ひ、弘前行には河井
一人なりき。弘前女學校は昨年來增築され、良教師
を增し、内外著しき擴張を示し居るは、慶ぶ可き
限なり。件教頭は以前橫濱共立女學校に教授たりし
とか、其後渡米され、神學、教育學を極め、今回同
校に新任されたり。東北の一隅に三十五年の歴史を
有する此校に於いて、同先生を迎ふるは斯界の慶事
と云ふ可し。到着後間もなく上級生に信仰の勸めを
爲し、職員方に紹介され懇談會をなし、夕刻寄宿生
と共同生活について語るを得たり、翌朝禮拜後盛岡
に行かん爲再び青森に歸へる。汽車後れしため漸く
七時半盛岡着、二時間以前エ夫人既に歸京の途につ
かれし由、夫人は高等女學校、小學校にて講話をな
し到る處大歡迎をうけしも親切なるタピング夫妻
の盛岡市に人望あるが故なり。
翌日霖雨中タピング夫人と共に苺畑にて梅大の苺

と共に村議會を開き、翌日二十三日午前六
停車場に着す。
はエ夫人をして日本に同情を厚からしめ、又北海道の有望なるに注目せしめたり。北方の
の自重して以て北地の特色を益發揮されん事に切に願ふて止まず。

美化されたる最後

貧にして女子學院學監にあらせらるゝ三谷
御嚴父の御永眠遊ばされしことは、御存じ
御座いませうが、今玆にその美はしき御臨終
神の御榮光が如何に山間の避地を照したる
様に御紹介致し度と存じます、
に在天の父の御側に行かれる如く、平和に
遊ばされたさうで御座います。岩瀧村には未
など傳へられませんが、御遺族の御望によ

御病氣重らせられたので　先生は萬一手落のな
樣にと看護婦をお尋ねになつたさうです、それを聞
きつけた村の女共が「私共の手で出來る事は何でも
致します、看護婦などをお雇ひにならないで、御親
戚の方々は只御看護だけを願ます」と云つて、或時
は二十人にあまる大家族の炊事場を引受けて喜んで
働いたので、御近親の方々は御病人の周圍にをられ
られて、心ゆく御看護を遊ばしたので御座います、
御臨終間近に父君は病床を圍んで居られる皆様を見
渡して「最後の大祈禱を」と仰せられたので先生も
ら順々に御子様方祈禱せられ最後に母君が祈られ
そうですそして天を指さして「吾父の家には住居
し」とニッコリなさつて皆様が「やゝにうつり來
夕日かげ」をお唱ひになり其のコーラスの終らさ
單純なる信仰が御臨終をして美化させたので、
神の御光が人の死により岩瀧村の避地にかゞや
事は感謝に堪へぬ次第で御

など傳へられませんが、御遺族の御望によ
の御葬儀が營まれました。花輪などは見た
村の青年達が諸所から花を集め美事な九個
造られ、これを捧持する人、穴を掘る人、
ぐ人、何から何まで村の人々の誠心になつ
御座います。都には金を出して贈花を頼む
と云ふ今日、葬式全部が愛情あふれたる、
つて營まれたとは何と美はしい事では御座
いか。
山間避地にも神の御榮光
と云ふ所は天の橋立に面し、自然の美には
る事の出來る處ださうで御座います至つて
で元より基督教會などはなく、宗教には緣
ださうで御座いますが、御父君の固き御信
しく一日〳〵と死を待たるゝ御病狀なるに
、永生を自覺せられ、平日に變らざる御
、何物をか期待されて眠られしその力その
の人々は驚き、この立派なる御最後は只事
と申し合ふさうで御座います。この潔き

神の御光か人の死により岩瀧村の避地にかゞやいた
事は感謝に堪えぬ次第で御座います。

□岩瀧村の光は先生の絕えざる祈

先生のお宅は舊家で、無論基督教などには緣のないお家だつたさうで御座いますが、先生の父君は早くから横濱、東京で、實業に從事せられたので先生も東京で御成長なすつて十三歲の時、基督を信ずる事を決心され、受洗されてよりは朝夕のお祈は「御父君が一日も早く神を認めらるゝやうに」との御願であつたさうで御座います、絕えざる眞の祈は何時か聞かれるもので、御父君は教會には屬されなかつたさうで御座いますが、現れずして高潔なる御父君の御信仰は、地上に於て最後の時に多くの人に神の御榮をあらはされました。尙其御家族は皆熱心な信者で御座います。斯く三谷家に基督の面影を宿し、村民に神の御榮をあらはされし事は實に先生の絕えざるお祈によるので御座います。私は御臨終の美はしき御話にうたれたと同時に絕えざる祈の如何に力あるか、又神は淸き願には必ず答へ給ふを今更の如く信じ弱き信仰に鞭撻を與へられしを感謝致します

りました來る九月廿一日(土曜)午後二時よ
り會員親睦會を會舘で開催致し升。何卒
ーを御忘れなく多勢御誘ひ遊ばして御來會下
やうに、略儀乍ら此度は御案內狀に代へて
にて御招き申上升。

に里に御互に別れて休んで居りました私共
張した秋の生活が廻つて參りました。久し
美禮拜も懷かしいでは御座いませんか、九
日(第五日曜)例の時刻に秋季第一回を開
月より又ミスパタソンの西洋料理第十二回講
ります。四組に分け午前の部デナー講習ラン
後の部一の組二の組と致しまして新學期に
皆樣の御熱心と御興味とに報い度いと存じ
す。

人は趣味性に富むだ國民だと申します併し

(月木金)以上の如く變更致しました。

(五)體操の組は御承知の如く特に體育の爲御來朝の
ミスホンダーの擔任で御座いますから御健康の爲有
効な御稽古をどなた樣にも御勸め申します。右擬業
開始十月。

(六)秋の七草咲き亂れ生花の好季節はこれからで御
座い升。九月初旬から從前の通り每水曜の午後より
夜にかけて先生に御出張が願つて御座いますから此
道に趣味を御持ちの方は振つて御來舘の程を歡迎致
します。

(七)聖書の組は學年の程度のみでなく信仰に適する
やうにとの考で組を分けて居ります。萬人に卒業期
のない筈の此聖なる學科の教場は永久の學びの
御座いまして如何なる眞理の花を摘むも思ひの儘で

修養會出席者一覧

人は趣味性に富むだ國民だと申します併し
だ足りません爲に日本服には多くの改良さ
地があると思ひ升。其缺陷を補ひ且實益の
へ度いと存じ東西の其方面の長短の研究を
て仕事會を思ひ立ちました。どうか時間の
御つき遊ばす方は御加り下さるやう切に御
升。
歌の一節に感激して醜惡な生活を悔いて清
に立ちかへつたと云ふ再生の人を私共は屢
れます。或特別の人に限られた天才的の美
れませんでも、我々各自が持つて生れた聲
其頂點まで發揮させて聲打ち合せ、宇宙の
唱歌隊を組織致し度いと存じ升。有志の御
て御熱中下さいませ。

第十三回女子青年會修養會講師及教師並に會員學校及出席者の一覽を左に掲ぐ

◎講師

釘宮辰生氏	宮川經輝氏	名出保太郎氏
山室軍平氏	日野原善輔氏	賀川豊彦氏
佐伯理一郎氏	今泉眞幸氏	中路ちか子女史
山田琴子女史	西野貞子女史	吉川起行氏
植村正久氏	新渡戸稲造氏	菊池武治氏
笹尾粂太郎氏	稲垣陽一郎氏	梶原長八郎氏
毛利官治氏	岩澤時子女史	ミセス、エデー
ミス、マグドナルド	河井道子女史	渡邊百合子女史

◎出席者數

總數四百五十九人、神戸二百六十三人、仙臺百九十六人

内譯　講師二十四人、傳道婦十二人、事務員九人
教師三十五人、家庭にあるもの十八人、媬姆四人、看護婦一人、會員及學生三百五十六人

代表せしもの十四校）五青年會

養會に代表されし學校左の如し

女學院（神戸）
子神學校（神戸）
女學校（大阪）
女學校（廣島）
女學校（名古屋）
和女學校（靜岡）
和女學校（橫濱）
子大學校（東京）
女學院（東京）
和女學校（東京）
姆傳習所（上田）
女學校（橫濱）
等女學校（岡山）
等女學校（兵庫）

同志社女學校（京都）
ウヰルミチ女學校（大阪）
梅花高等女學校（大阪）
福岡女學校（福岡）
淸流女學校（名古屋）
捜眞女學校（神奈川）
フエリス女學校（橫濱）
女子英學塾（東京）
女子學院（東京）
梅光女學校（下ノ關）
共立女學校（橫濱）
梅田高等女學校（大阪）
山梨英和女學校（甲府）
奈良女子高等師範（奈良）

松井智惠　森知　鯨岡きぬ　佐藤千代　米澤幸惠　長谷川幾　栗田百合　佐藤恭　小野田きよ　市橋貞　松本たみ　富永初　大野しづ　月本きよし　北川しづ　藤見とよ　千貫春子　柏野千惠子　今井精子　村瀨久世

渡邊君代　田中みつ　田中なほ　米澤とみ　塚本ふみ　ミス、ソール　服部やす　板みさを　梶原きく　石原ふみ江　グレー、ストー　メリー、ストー　廣瀨すゞ　淺井まり　淺野のぶ　原田美佐尾　古武元子　大澤富貴子　畠中清子　岩崎きよ子

佐藤正子　中村久子　松本三重子　吉岡はつ　榊原きみ　松本千惠野　中島浩　田上松枝　大松たね　武川千代　佐々木はる　近藤しづ　馬場みさほ　田中しづ　湯淺春代　佐伯忠子　武藤ますゑ　百瀨和子　小池すい　高島幸世

をる　ほ子　さ子　靜子

白藤信子　田中やう子　山崎時子　蘆田かめ子

秦しむ子　松井千代子　島ふみ枝　久永とよ子

吉田ちか子　本多たけ子　鹽見縫子　、

淺井泰子　松本敏子　名和しげ子

末川春野　田中こと子　塚本千枝子

まさ子　静子　高子　菊野　都子　あき子　初枯　みち子　まつ江　静枝　英子　たか子　かよ子　友江　静　ー、ド　花江　むつみ　壽賀　まつ子　澤江　やよひ　保子

山崎時子　藏田かめ子　楠ことち　森田好子　關口かれ子　ミス、トリストラム　杉野友子　進藤節子　副島松美　内田茂登子　郷田しま子　武内さだ子　德田千代子　飯島秀子　降旗薫子　佐々木民子　尾崎ます子　阪部こま子　藤井歌　池田三千代　森谷金子　邑まさ子　小野澤江

島ふみ枝　久永とよ子　森やす子　奥元はな子　釜谷千壽　高畠香羽子　小島久子　松原榮子　金瑪利亞　大山節子　弘中つち子　川島千代子　小野政子　進藤とめ子　井口勝子　野田みち子　辰巳芳子　中村桂子　秋元豐野　塚本ふじ子　椎葉ふき子　兒島まさ子　堀江くに子

鹽見縫子　小西静子　島田須摩子　瀬林智惠子　近藤多惠子　松尾かをる　岩切とき子　芝やへ子　山岡愛子　金原一枝子　鈴木静江　威島静子　石神百合子　小島みち子　土屋あや子　粕谷よし子　太野輝子　春日繁子　菊池たつ子　今村とみ　越智隆子　前田みね子　柏野ちゑ子

名和しげ子　湘山やす子　加島のり江　兒島まさ子　三戸和枝　濱崎薫　木塚こう子　堀愛子　花島ゆき子　川村やう子　松本たか子　飯沼幾子　湯淺俊子　矢野茂野　近藤正子　幡野けい子　岩崎みよ　和田小しづ　前崎てる子　加治ゑつ子　竹内梅子　長松さだ子　澤村あい子

塚本千枝子　田上花代子　小堀清子　本間花子　大谷槇子　山本伸子　深水君江　和田雪枝　水野美和子　黒崎龜代子　福井喜多子　武安あい子　吉岡喜久子　村田友子　關口とし子　香川菜　杉きち子　高見松子　松本春枝　白井八重子　月本政子　村田榮　東すま子

和女學校（甲府）
女學院（東京）
學院（東京）、
ス女學校（橫濱）
女子大學校（東京）
粧女學校（京都）
小學校（盛岡）
女子職業學校（東京）
商業學校（東京）
家政女學校（東京）
高等女學校（東京）
高等女學校（橫濱）
高等女學校（米澤）
女學校（仙臺）
高等女學校（濱松）
高等女學校（仙臺）

遺愛女學校（函館）
東洋英和女學校（東京）
捜眞女學校（橫濱）
共立女學校（橫濱）
神戸女學院（神戸）
北星女學校（札幌）
土淵尋高小學校（盛岡）
和洋裁縫女學校（東京）
香蘭女學校（東京）
佛英和女學校（東京）
森村小學校（東京）
梅花保姆傳習所（上田）
宮城女學校（仙臺）
プール女學校（大阪）
金ケ崎小學校（仙臺）
三輪田高等女學校（東京）

齋藤その　田村弘代　平野ぬい　薄井ヤシ　庄司みどり　降矢清子　山崎キヌ　畠山たみ　池田さだ　船越谷よし　大橋房子　積山文枝　松平初子　田丸ハツ　伊藤與志尾　岩本靜枝　南あや　兒玉愛　大松信

本野千代　中村みち子　佐藤いれ　伊藤英　今村俊　猿川秀　大橋芳子　長崎利代　菅原ラヱ　鳴海くに　間野千代　鶴田竹　秋山三從　坂西志保　鍋川ちゑ　黛邦子　大村すみ　三井春　中森りん

松倉タマ　淸藤しげ　本堂しま　野口文子　河内國　藤田チカ　和田久野　西村キヲ　藤野吉　佐々木みとし　永島めれ　齋川一枝　松宮咲子　藤本みや　中尾富美　飯島八重　松本松枝　木野とし　田邊しげ

すま　鶴子　イサチ
千葉秀子　榎本しん　森田せん　長谷部ジュン
井手のぶ　高橋嘉　小野寺貞子
畠山多賀　橫山榮子　中目ふみよ
伊藤のどか　佐藤かね　鈴木せい
安積しのぶ　石森愛　山田せつ

イサチ
キネ
元子
洋子
杜代
昌子
司那
春路
寺トシ
としを
さだ
篤子
のぶ
多喜
キクロ
間美子
合子
たとり
やう
木千代
きちよ
光爾
かをり

森田せん
長谷部ジュン
越智嘉美
麻田百合子
細貝貞子
前島とし
佐藤正子
牧瀬ナツ
上野俊子
高橋のぶ
鈴木ミユキ
土井照山子
小西うた
森まつ
梶原道子
佐久間靜子
嵐田うん
行岡まつ
須藤照
山岸しげ
岡ひさし
菅野きくよ
木のぶ

小野寺貞子
仁科初音
志立多代
前島菊子
清岡マロ
寺尾晃子
乗附むめ
新渡戸壽鶴
佐々木しげ
田中八重
阿部エイ
千葉よし
加藤拾葉
橋本ケイ
佐藤かめ勝
佐伯ますえ
秋保のどか
南ひさし
山口都美代
中瀬壽子
大島勝世
土井千代
今泉勝子

中目ふみよ
小山茂子
高橋ふみ
濱田たり
吾妻千代
小野まつ
佐藤操
大塚けい
土井八枝
尾澤喜舞
ミス、フオンダ
ミス、ガンター
渡邊百合子

鈴木せい
鈴木俊
岩田愛
駒澤みち
稲垣文
ミスプリングル
渡邊道子
伊藤しの
勝部愛
ミス、アーレン
ミス、ベーカー
ミス、マシユウ
堀順

山田せつ
佐藤はる
中村幸
太田原慈子
山田森
吾妻千枝
三浦ミサ
高橋辰巳
高野みちゑ
ミス、プゼル
ミス、オルチン
河井道子

に依て益々盛になつて參る青年會の御様子を伺ひ感謝し
先日はミスページ及新渡戸夫人御寄港になり久々にて御
れしう御座いました色々東京の方々のお話を伺ひ故國の
なつかしくなりました何れ一二年の内に歸朝致すのを樂
て居ります、當地の新聞ではミスページが數日間御滯在
書いて御座いましたので御紹介かた〳〵重なる同胞婦人
頂く積りでプログラムを作つて居りましたのに船の都合
り殘念で御座いました、然しお歸りの時は必ず御滯在下
でしたから樂しみに致して居ります。この手紙がお手に
めし仙臺の夏期修養會に御出の事と存じます、全會員の
惠の豊かならん事を三千里外の此地より祈つて居ります
せば當地にフエリス女學校の卒業生が曾つて大津の修養
一緒でしたと仰しやる御夫人が一人御座いまして勿論こ
じ上げませんでしたが先方では私を能く覺えておいでに
す不思議な事には住宅もわづか五六丁しか離れて居りま
心易く願つて居ります、御夫婦ともクリスチヤンでそれ
そうな立派な家庭を持つて居られます。御地で修養會の
當日は當地でも二人が集まつて讃美歌をうたひ青年會の
りしたいと思ひますそして昔の修養會時代を偲ぶつもり
。

ジエネバに參り昨年の學生天幕生活と同じく天幕生活にて過し居り候然し昨年の學生方と大學生の方々凡五十人程にて實に樂しく過ごし候皆様の御活潑なるは實に心地よく候聖書研究を初めプログラムは昨夏の通り毎朝七時起床三分間の體操それより湖水に飛び込み終つて身仕度有之この二つが昨夏と違ひ居り候社會事業の研究なども中々盛りて候世事にうとき私には事々新しく與へられしこの機會に對して感謝いたし居り候學校の御都合で大呑様御出なき爲日本人は私一人もつと多くの同胞とこの樂しみをわけ度候支那人の友人と共に語り合ひ何時も感謝致し居り候日本の修養會の上に惠み豊かなれと日々祈り居り候御なつかしさの餘りに逐ひ〳〵長々といろ〳〵の事聞え上げ候何卒御身御大切に。

岡山　陶山よね

私共姉妹は津山から八里ほど山奥の奥津村大釣と云ふ處に十日程行つて參りました景色は雄大で美しい温泉もありまして仲々よい處できてお寺をと思つて參りました處が何分にも初めての事で様子が分りませんでしたのですが行つて見ると案外！　お寺は一種の木賃宿で大勢の粗野の人々否むしろ病人がゴタ〳〵居るので私共の目的としては不都合と心得自由館と云ふ宿室に身をおちつけました、此室は川の上に部屋がつき出て居つて大きな巖に水の碎けるところは絶景でした、朝は早々其岩に出て默禱に身を固め聖書少々他の本を讀みなどゝしました、餘りよい處で十八日頃したが何分にも宿屋ですから人々の出入多く中には學生

金五圓也　横濱女子青年會
金百圓也　エルサキン

したが何分にも宿屋ですから人々の出入多く中には學生もりながら娼妓や酒に耽ける者など居て堪えられませんと歸りました、でも其中には純な田舎のお婆さんお爺さ可愛い話などするのは私にとつて何とも云へぬ美しい感
勿論室は別にして置いてもらつたのですが此夏はどう設定を替へ度ありませんので又何處か探がして山か何處と思つて居ります。

附金會友會費雜誌代及び萬國女子青年本部負擔金領收報告（本部）

金

ボーンフインド

ラツセル

也　ワグナー

也　清流女學校女子青年會

也　東京女子青年會學生部

也　捜眞女學校女子青年會

東京女子青年會體操ノ組

本部負擔金

金百圓也　エルサキン

會　費

金壹圓也

山名　紗子（大正七ノ七―八ノ六）　莊原　秀（大正七ノ二―八ノ一）

山科かなえ（大正七ノ七―八ノ六）　スト　ウ（大正七ノ七―八ノ六）

ウヰリアムス（大正七ノ七―八ノ五）　土井　八枝（大正七ノ二―八ノ一）

金參圓也

津田　梅（大正七ノ五―八ノ四）

雜　誌　代

金八拾錢也

酒井　芳子（大正七ノ六―八ノ五）　白井　市子（大正七ノ六―八ノ五）

クラーク（大正七ノ七―八ノ六）　石原　宵彌（大正七ノ五―八ノ四）

内田　兵司（大正七ノ七―八ノ六）　野崎　正子（大正七ノ八―ノ六七）

今城　テウ（大正七ノ四―八ノ三）　渡邊　きし（大正六ノ十一―七ノ九）

中村房太郎（大正七ノ七―八ノ六）　赤津　ウン（大正七ノ六―八ノ五）

金八拾壹錢也　小笠原とき（大正七ノ五―八ノ四）

金壹圓也

伊藤　俊（大正六ノ十二―七ノ十一）　築地　さつ（大正七ノ七―八ノ六）

島田　はつ（大正七ノ九、五部代）

大正七ノ七—八ノ六〕 伊藤　英子〔大正七ノ七—八ノ六〕

大正七ノ七—八ノ六〕

錢也

大正七ノ四—八ノ三〕

大正七ノ七—八ノ六〕 プリンゲル〔大正七ノ七—八ノ六〕

ン〔大正七ノ七—八ノ六〕 キャメール〔大正七ノ五—八ノ四〕

大正七ノ六—八ノ五〕 山崎　きぬ〔大正七ノ七—八ノ六〕

錢也　東洋英和女學校青年會

大正七年八月廿八日印刷納本

大正七年九月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會　電話本局五九八番　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子

印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　同　右　三成舍

年界」定價及廣告料

	地	海外
	八錢	金拾壹錢
	拾錢	金壹圓貳拾錢

回	掲載
四分一頁	金五圓
全頁	金拾五圓

は回數により割引有

ng and
e girls,
Many
ege of
almost
ifferent
ay also
eet the
Most
seems
school
is also
mission
us. It
e about
can be

when
He had
ith the
Lieute-

of the
sailed
spent
visiting
meant
to our

Most of
awa.
1000.,

Young
on her

a, and

One problem we must meet is to so arrange Bible teaching a addresses at these conferences as to fit younger girls, mature gir mission school girls and non-Christians from other schools. Ma non-Christians from Government Schools have much knowlege Japanese thought and custom combined with mature minds and almo no knowledge of Christian things. Such girls need very differe treatment from younger girls from Mission schools who may al not be Christians. Another probblem is to find a time to meet t needs of all students. Many mission schools close early in July. Mo Girls High School close later, some as late as July 31st. It seen necessary to have a conference for further training of mission scho girls and in ways of working together for others and it is al exceedingly valuable to have them meet the girls from non-missio schools. At the present however, the problem of time is serious. is suggested that next year we again hold two conferencss, one abo the middle of July and one early in August. As soon as it can l arranged for we should have a conference for teachers only.

PERSONALS

The war was brought very closely home to us recently whe news was received of the death of Miss Patterson's brother. He ha been in the war from the very beginning, having gone over with th first contingent from Canada. He received his commission as Lieut nant in March of this year.

Mrs. Katherine W. Eddy of the Foreign Department of th Y.W.C.A. of the United States, with headquarters in New York, saile for San Francisco on the Shinyo on July 27th. Mrs. Eddy spe almost a year in China and Japan, studying conditions, and visitin the associations in these two countries. Mrs. Eddy's visit has mea much to our work, and she has been a great inspiration to ou secretarial staff.

Miss Edith Wells, Miss Harriest Smith and Miss Sophia Most o the Y.W.C.A. in China spent their summer vacation in Karuizawa.

We are deeply indebted to Mr. Morimura for a gift of Yen 1000. which has been added to our endowment fund.

Miss Grace L. Coppock, National Secretary of the Chinese Young Women's Christian Association, spent three weeks in Japan on he way back to China.

Miss Ethel Fonda spent a part of her vacation in Korea, and reports a very pleasant and interesting time.

Y. W. C. A. Conferences 1918.

On the last night of the Sendai Conference one of t teachers said, "Every one of the girls who came int non-Christians at the beginning of the conference, has a Christian. I never felt God so near."

We know of twenty girls at the Sendai Conferenc at the Kobe Conference, who made definite decision fo two at the special two day Conference at Koroen near

The statistics of attendance for the three confe follows:

Enrollment 459 — Kobe 263 — Sen
Seapkers and Bible Teachers ... ...
Bible Women attending ... ...
Teachers... ... ...
Business Women ... ...
Nurses ... ...
Kindergarten Teachers... ... ...
Girls living at home ... ...
Students ... ...

Koroen Conference ... ...

Number of schools represented 68—Kobe 34—Sen
Number of Churches represented 7 at each conf

The connection between healthful recreation and fe religious understanding and conviction, was very plain the Sendai Conference. The play and the music were sc from tne beginning, that shy girls were made happy a self consciousness, and by playing and working togeth to a natural feeling that made deep impressions possibl of the conference went by. One all-day picnic was arra conference; the fact that this was an absolutely new several girls present, was a surprise indeed.

The closing meetings at both conference were mos At both in different ways a candle service was arranged to every girl what her life was to be as she went back ence.

腸内の病原菌を死滅せしむる唯一の

整腸常備藥

ラクトスターゼ

長壽保命の要素と稱せられたる乳酸菌の製劑たる本品は腸内に繁殖する各種の病原菌を死滅せしむる作用あるのみならず、腸内の腐敗醱酵を制止し、下痢便祕等を豫防治癒せしむる効顯著なる爲め總ての腸疾患小兒の消化不良等に對し整腸藥として賞用せられつゝあり。

傳染病研究所に於て目黑氏の實驗報告に據ればコレラ菌は一二分間、チフス菌赤痢菌は十分間に乳酸菌培養基にて死滅することを證せられたり。

▲粉末錠劑の二種あり、各地藥舖に販賣す、實驗報告あり贈呈す。

脚氣に賞用せらる、

「オリザニン」

本邦蛋白化學の泰斗鈴木博士創製の本品は貴重なる新營養劑にして、白米食に因する營養不給殊に脚氣樣症狀に賞用せらる鈴木博士其他の實驗報告を綜合するに食品中本劑の成分を缺除せんか漸次營養不良となり遂に倒死する事實を動物試驗に依り實證せられたり。

故にオリザニンは營養劑として脚氣、小兒の營養不給、食慾不振、產前產後及病中病後等の營養劑として好適する事を確證せらる。

▲液劑百瓦入、越幾斯劑四十五瓦入の二種あり

▲實驗報告書御申越次第贈呈す

東京室町

三共株式會社


東京銀座
合資會社
山野樂器店
電話 京橋 一〇五二番
二二九八番